

始

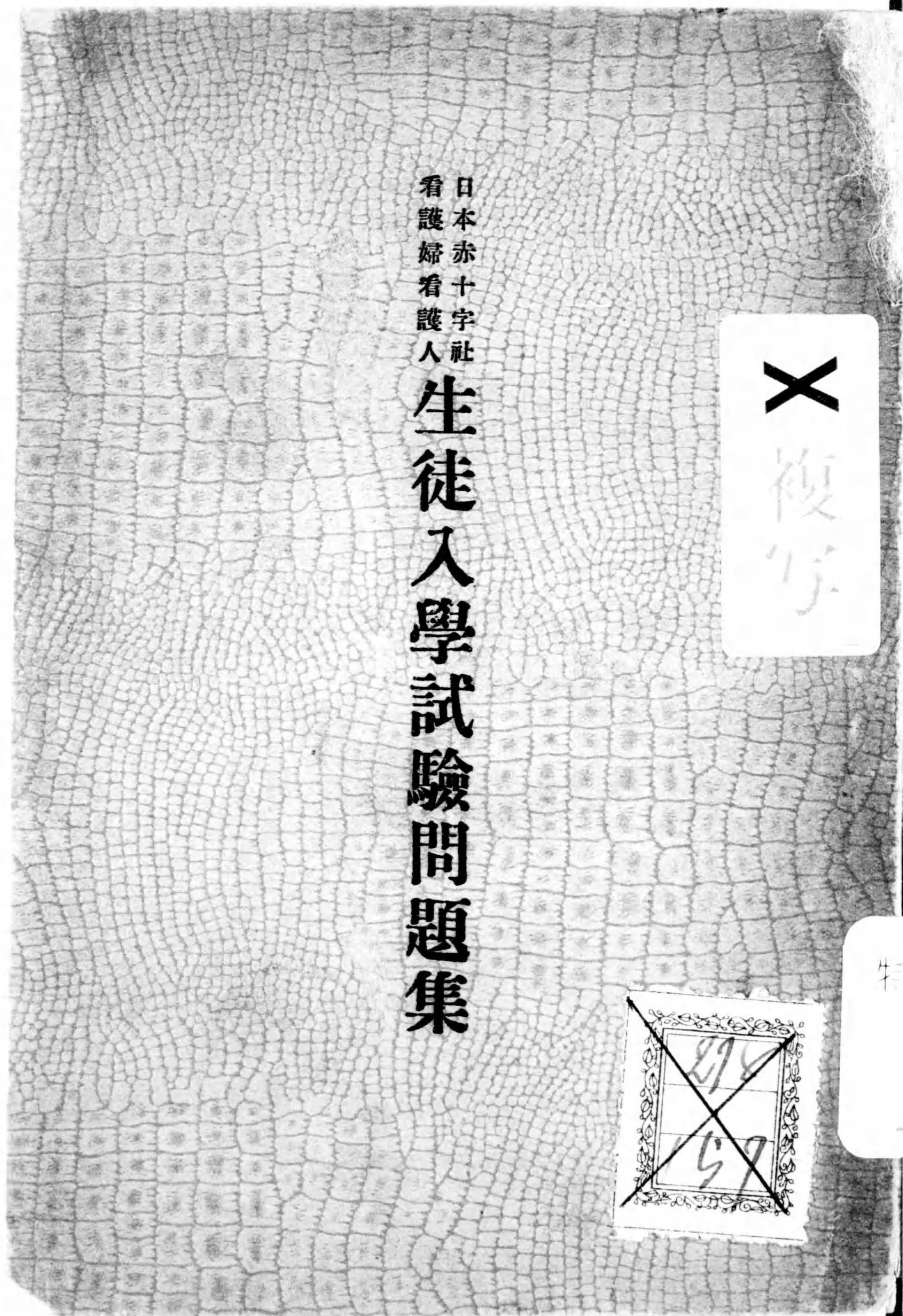


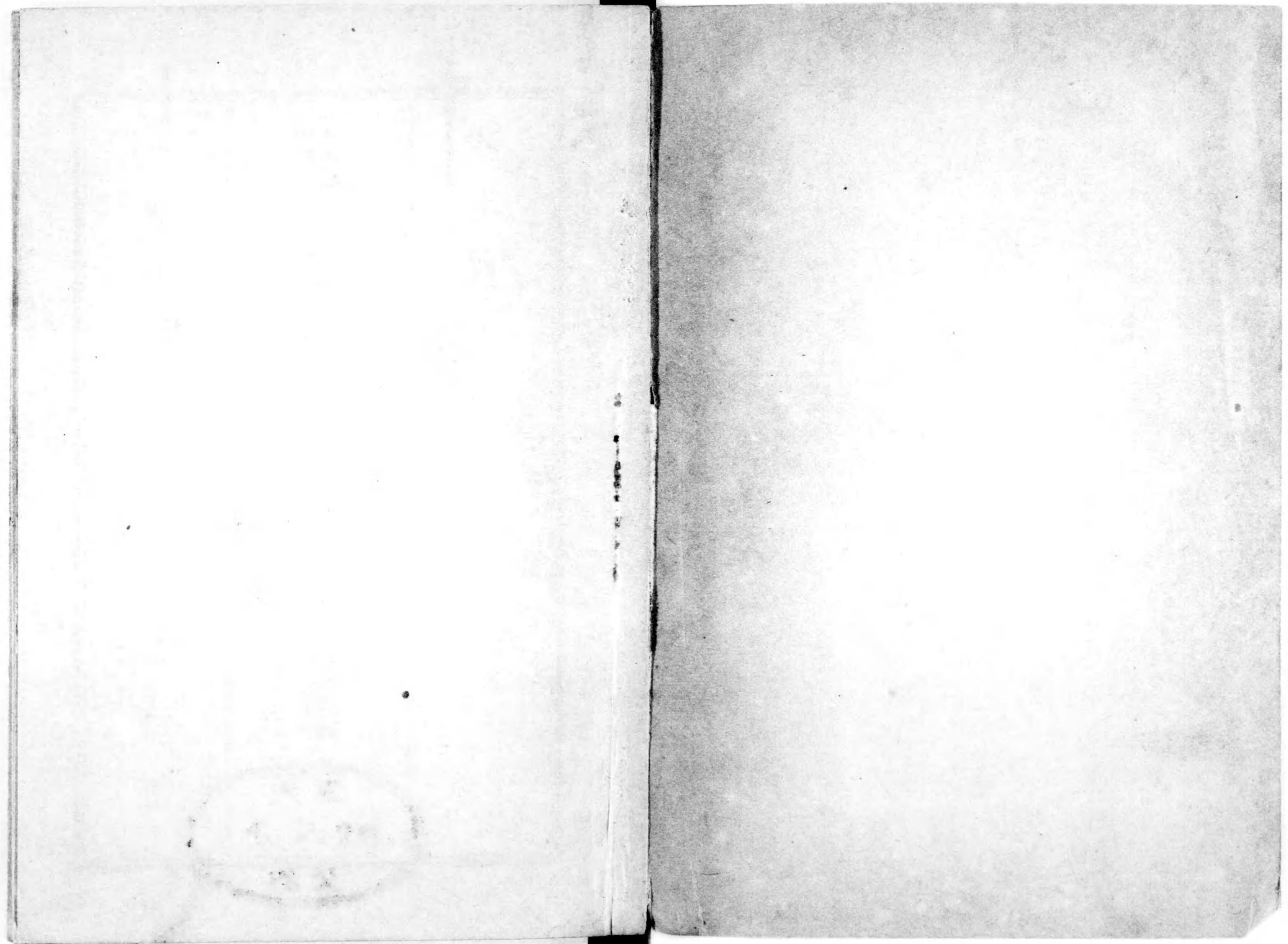
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25

X
複写



日本赤十字社
看護婦看護人
生徒入學試験問題集





特100
207.

大正四年二月

日本赤十字社
看護婦看護人

生徒入學試驗問題集

東京

博愛發行所

大正
4. 2. 26

開



凡 例

- 一 本書には日本赤十字社本部及各地方支部救護看護婦生徒入學試験問題の外志願者の爲め先づ志願者の心得べきことより志願の手續、愈々入學試験に合格して入學せるもの、心得べきこと、卒業者の待遇及び必要なる書式等を示したれば、志願者は之れを熟讀して志願の手續をなすべし
- 一 讀書の文中解釋を施すべき個所には括弧を附して其字義を解釋し又漢字を入れるべき個所にも同じく括弧を附して其漢字を充當せり、但し分り切りたる字義には解釋を略せり
- 一 原文の片假名はすべて平假名とせり

一 試験課目は讀書、書取、作文及算術の外尙ほ應問の一課あれども應問は口頭試験なるを以て問題集中には之を省けり

一 本書は咄嗟の間に成りしを以て悉く昨年の問題を蒐集し得ざりしかども本年度の入學試験問題は全國より蒐集して來年増補出版する計畫なり

大正四年二月

日本赤十字社
看護婦看護人
生徒入學試験問題集目次

緒言.....

志願者の心得べきこと.....

志願の手續.....

入學者の心得べきこと.....

卒業後の待遇.....

看護婦生徒の部.....

日本赤十字社本部(大正元年度).....

日本赤十字社本部(大正二年度).....

日本赤十字社本部(大正三年度)	三
北海道支部(明治四十三年度)	二六
東京支部(大正元年度)	三〇
東京支部(大正三年度)	三六
京都支部(第八回)	四二
京都支部(第九回)	四三
京都支部(第十回)	四四
京都支部(第十一回)	四八
京都支部(第十二回)	五一
京都支部(第十三回)	五二
京都支部(第十四回)	五五
大阪支部(大正二年度)	六〇
大阪支部(大正三年度)	六六

神奈川縣支部(明治四十三年度)	六九
兵庫支部(明治四十三年度)	七二
長崎支部(明治四十三年度)	七四
新潟支部(明治四十三年度)	七六
埼玉支部(明治四十三年度)	七九
群馬支部(明治四十三年度)	八一
千葉支部(明治四十三年度)	八五
奈良支部(明治四十三年度)	八六
三重支部(明治四十三年度)	八九
愛知支部(明治四十三年度)	九二
静岡支部(明治四十三年度)	九五
山梨支部(明治四十三年度)	九八
宮城支部(明治四十三年度)	一〇〇

岩手支部(明治四十三年度)	一〇四
青森支部(明治四十三年度)	一〇七
山形支部(明治四十三年度)	一〇九
秋田支部(明治四十三年度)	一一一
福井支部(明治四十三年度)	一一六
石川支部(明治四十三年度)	一二一
富山支部(明治四十三年度)	一二九
鳥取支部(明治四十三年度)	一三三
岡山支部(明治四十三年度)	一三五
和歌山支部(明治四十三年度)	一三九
山口支部(明治四十三年度)	一四二
香川支部(大正二年度)	一四四
香川支部(大正三年度)	一四六
香川支部(大正三年度)	一四八

愛媛支部(明治四十三年度)	一四一
高知支部(明治四十三年度)	一四四
福岡支部(明治四十三年度)	一四五
大分支部(明治四十三年度)	一四九
佐賀支部(明治四十三年度)	一五一
熊本支部(明治四十三年度)	一五四
宮崎支部(明治四十三年度)	一五七
鹿児島支部(明治四十三年度)	一五九
看護人生徒の部	一六三
東京支部(大正二年度)	一六三
京都支部(明治四十四年度)	一六五

目次終

日本赤十字社看護婦生徒入學試験問題集

緒言

看護の業は以前は随分世間から賤しまれたものですが、世の中の進むに従つて、病人の看護と云ふものは高貴なる博愛慈善の精神をもつて居らなければ出来る業でないから決して賤しむべきものでない。すなはち看護は博愛慈善的の事業といつてもよいのであるから寧ろ尊重すべきものであると云ふことが一般に分つて來、従つて看護婦も尊敬せられるやうになつたので、近來は志願者がドンと殖えて來たやうです。其の看護婦の中でも赤十字社の看護婦は一朝戦争の起きた場合には、傷病軍人の看護に従つて、男子と同じやうに直接義勇公に奉ずることが出来ること云ふので、殊に志願者が多いやうです。處で其の志願者の中には志願するにはどう云ふ手續を

したらいたらう、又入學試験はどう云ふことをするだらうと尋ねらるゝ方が澤山あるので、そう云ふ人の爲めに本書を編しました、乃て入學試験問題の前に先づ志願者の心得べきことや、志願の手續や、いよく試験に合格して入學してから的心得や、又いよく卒業して救護看護婦に採用された後の待遇等を示すため、赤十字社の諸規則中から必要な事柄を摘録することにした。

一 志願者の心得べきこと

- 一 生徒の養成は傷病者の看護に關する學術及陸海軍衛生勤務の要領を教授す。
- 二 生徒は卒業後十五箇年間救護看護婦として戦時、事變又は災害救護其他の他演習、講習、點呼の際何時にても召集に應ずるの義務を負ふものとす但し戦時、事變又は災害救護其他の爲召集中は一定の俸給又は手當を

- 三 生徒は所要に従ひ本部（東京の赤十字社本部）又は支部（各府縣廳所在地に支部あり）に於て之を採用し其の養成は本部に在りては本病院支部に在りては支部病院又は他の支部病院、養成所に於て之を行ふ但し支部生徒は場合に依り本病院又は他の支部病院、養成所に於て養成することあるべし
 - 四 生徒は一般志願者より募集す但し志願者の年齢は滿十六年以上三十年未滿にして其の身幹は四尺六寸五分以上とす
 - 五 生徒志願者にして左の各號の一に該る者は採用せず
- 一 身體強健ならざる者
 - 二 素行修まらざる者
 - 三 家資分散又は破産の宣告を受け未だ復権を得ざる者及従前身代限りの處分を受け辨償の義務を終へざる者
 - 四 懲役又は無期若は六箇月以上の禁錮に處せられたる者及舊刑法に依

- 四 重罪又は定役に服すべき軽罪の刑に處せられたる者
- 五 修業年間家事に係累ある者
- 六 有夫の者

二 志願の手續

- 六 生徒志願者は願書（書式第一號）に履歷書及戶籍謄本を添へ募集を行ふ本部又は支部に差出すべし
- 生徒に採用の通告を受けたるときは身元確實なる者二名（内一名は公民権を有する者）を保證人と爲し入學證書（書式第二號）市、區、町村長の身元證明書（前項の三、四に該當せざる者なること）を差出すべし但し保證人の内一名は其の募集を行ふ本部又は支部所在の廳府縣下に在住する者に限る
- 七 生徒は試験の上採用す其試験科目は左の如し

- 第一 身體検査
 - 第二 學科試験
 - 一 讀書
 - 三 算術
 - 五 應問
- 漢字交り文
普通の文書
- 二 作文
四 算術
- 文
術
- 往復書簡文
四則雜題
- 學科試験の程度は概ね高等小學卒業の學力に比準す但し高等小學卒業の者又は之と同等以上の學力を有する者と認むべき修業證書所持の者は讀書、作文、算術の試験を行はざることあるべし

三 入學者の心得べきこと

- 八 生徒志願者身體検査に合格したるときは學科試験の上及第者を定め其の成績の順序に依り所要の人員を採用す
- 九 生徒に採用の通告を受けたる者傷病其の他止むを得ざる事故を生じ

入學延期を願ふときは其の願書に何日間猶豫の旨を記し診断書又は確實なる證明書を添へて差出すべし

十 生徒卒業後學術及勤務の成績良好且部下取締の才能ありと認むる者は

十一 志願に依り更に六箇月間看護看護婦長候補生として養成する事あるべし

十二 變の際之を變更することあるべし

十三 生徒所定の課程を卒業したるときは卒業證書を授與す

十四 傷疾にして左の各號の一に該る者は退學を命ず

十五 品行不正又は怠惰にして改悛の目途なき者

十六 學業の成績不良にして卒業の目途なき者

十七 五ノ一號乃至六號に該る事項を生じたる者

十八 大祭祝日

十九 日曜日

二十 皇后陛下御誕辰

二十一 本社創立日(五月一日)

二十二 右の外養成上の都合に依り暑中又は年末、年始に際し休暇を與ふること

あるべし

十六 生徒及保證人の轉籍、轉住、氏名變更其他身上異動又は保證人の

變更等は保證人より速に届出づるものとす

十七 生徒父母の死亡又は病氣危篤其他止むを得ざる事故に依り歸郷を

願出たるときは往復を除き一週日以内を限り許可することあるべし但し

七

第二號に該る者は養成中の學費を返還せしむ

十四 生徒は情願を以て退學することを得ず

十五 生徒の休暇日は左の如し

大祭祝日

日曜日

皇后陛下御誕辰

本社創立日(五月一日)

右の外養成上の都合に依り暑中又は年末、年始に際し休暇を與ふること

あるべし

十六 生徒及保證人の轉籍、轉住、氏名變更其他身上異動又は保證人の

變更等は保證人より速に届出づるものとす

十七 生徒父母の死亡又は病氣危篤其他止むを得ざる事故に依り歸郷を

願出たるときは往復を除き一週日以内を限り許可することあるべし但し

四 卒業後の待遇

二十三 生徒卒業後本社救護看護婦として採用せられ戦時召集せられて勤務に服する場合には左の月俸を受く

甲額二十二圓 乙額二十圓 丙額十八圓

尚其の上召集中一定の期間を経て勤務優秀なるものには特別俸を給せらる、其の特別月俸額左の如し

甲額十圓 乙額八圓 丙額六圓 丁額四圓

又戦地、病院船及び国外に派遣せらるるものは月額本俸の四分の一の加俸を給せられ又救護看護婦(又は救護看護人)にして組長を命ぜられたるものは月額二圓の加俸を給せらる

二十四 勤務に服する場合には宿舍及糧食を給せらる、但し勤務の都合に依り現食を給し能はざる時は食料費を給せらるゝものとす

書式第一號 (用紙半紙郵便) (戸主未成年者なるときは其後見人又は親権者の連署を要し本)

救護看護婦生徒採用願

某 儀

日本赤十字社救護看護婦生徒志願ニ付御採用被成下度卒業ノ上ハ貴社規定ノ誓約年間何時ニテモ召集ニ應ジ救護ノ業務ニ従事可仕依テ別紙履歴書戸籍謄本相添此段相願候也

年月日

住所

何府(縣)何郡(市)區(町)村(番地) 何府(縣)何郡(市)區(町)村(番地)

戸本主人

氏名 生年月日 氏名

日本赤十字社長(何支部長)曾氏名殿

書式第二號 (用紙半紙罫紙)

(採用の際身元証明書及保證人の内一名は公民権を有する旨市(區)町(村)長の證明したる書類と共に差出すべきものとす)

一二

印 紙 入

入 學 證 書

(印紙には本人及各保證人捺印すべし)

氏 名

右貴社救護看護婦生徒ニ御採用ニ付テハ御規則可相守ハ勿論貴社救護員養成規則第十八條ニ依リ學費ノ返還ヲ命セラレ候節ハ保證人連帶責任ヲ以テ辨償可仕尙修業中本人身上ノ儀ハ何事ニ限ラズ保證人ニ於テ引受可申候也

年 月 日

本 籍 所

何府(縣)何郡(市)(區)何町(村)何番地
何府(縣)何郡(市)(區)何町(村)何番地

保 證 人 氏 名

本 籍 所

何府(縣)何郡(市)(區)何町(村)何番地
何府(縣)何郡(市)(區)何町(村)何番地

保 證 人 氏 名

本 籍 所

何府(縣)何郡(市)(區)何町(村)何番地
何府(縣)何郡(市)(區)何町(村)何番地

保 證 人 氏 名

生 年 月 日

日本赤十字社長(何支部長)爵氏名殿

(履歷書記載例)

(記載例の外履歷に關する事項は悉く記載すべし)

履 歷 書

- 一 何年何月某學校ニ入校何月何日何々卒業
- 一 何年何月某學校ニ入校(某ニ就テ)裁縫(何々)修業
- 一 何年何月ヨリ何年何月マデ某學校ニ入校(某ニ就テ)何々語學ヲ研究ス

- 一 何年何月何日何々ヲ命ゼラレ月(日)給何圓
- 一 何年何月何日何々ニ付某官廳ヨリ金何圓(喪狀)下賜
- 一 何年何月何日何々ノ廉ニ依リ月給何分ノ一減俸(譴責)ヲ受ク
- 一 修學年間家事ニ係累ナシ
- 一 家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケタルコトナシ(受ケタルコトアルモ復權ヲ得タリ)
- 一 身代限ノ處分ヲ受ケタルコトナシ(受ケタルコトアルモ辨償ノ義務ヲ終レリ)
- 一 懲役又ハ無期若ハ六箇月以上ノ禁錮ニ處セラレタルコトナシ
- 一 舊刑法ニ依リ重罪又ハ定役ニ服スベキ輕罪ノ刑ニ處セラレタルコトナシ

右ノ通相違無之候也

年 月 日

何府(縣)華(士)族(平氏)

戸主(某何女)

氏 名 氏

生 年 月 日

(身元證明願書例)

證 明 願 書

本 籍

何府(縣)何市(郡)何町(村)何番地

戸主(又は戸主何某何々)

何 某

生 年 月 日

- 一 家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケタルコトナシ(受ケタルコトアルモ復權ヲ得タリ)
- 一 身代限リノ處分ヲ受ケタルコトナシ(受ケタルコトアルモ辨償ノ義務ヲ得タリ)

ヲ終レリ)

一 懲役又ハ無期若ハ六箇月以上ノ禁錮ニ處セラレタルコトナシ

一 舊刑法ニ依リ重罪又ハ定役ニ服スベキ輕罪ノ刑ニ處セラレタルコトナシ

右證明相成度候也

年月日

右

何

某 ㊦

市(區)町(村)長 何

某 殿

看護婦生徒の部

○日本赤十字本社本部

(大正元年度入學試験問題)

讀書

虚偽きよぎの假面かめんは一時じひと人を欺あそびきて或は賞讃しょうさんせらるゝが如ごときことあるべきも決して久ひさしく保たもち難がたく、遂つひには剝はがれて真相しんさうを暴露ばくろし信用しんようを失うしなひ擯斥ひんせきを受うくるに至いたらんこと必ひつせり。縦よし僥倖げうかうにして長ながく之これを保たもつことありとするも、己おのれが心こころは決して欺あそぶ能あたはず、自みづから省かへみて内うちに疚やましき所ところあり、外そとに對たいして自みづから愧はづる處ところあるべくば、心常こころづねに安やすからず、遂つひには自みづから苦悶くもんに堪たへざるに至いたるべし。

虚偽 (うそいつはり)
真相 (まことのあるさま)

賞讃 (ほめたゝへる)
排斥 (しりぞけられること)

書取

- 一、溫和は女子の美德なり、溫和とは荒々しき言行なくすなほに優しきを云ふ
- 二、女子は男子に比し身心弱きを以て其職分を全うするには最も堅固なる志操を要す
- 三、女子に必要な徳は仁慈の心即ち同情心にして人道の最も崇高なるものなり
- 四、品行節操は女子の生命にして之を亂し之を破れば女子として、生命を失ひたるものと云ふべし

作文

米國にある親友の安否を問ふ文

算術

- (1) $(2357 + 31506 + 47921) \div 687 = ?$
- (2) 庭園五反九畝家屋の敷地二十二坪を有する長方形の地所の東西の長さ五十六間ありと云ふ然らば此地所の南北の長さ幾何なるか
- (3) 牧者あり或る牧場に飼養の目的を以て一頭八十五圓づゝの牛百二十頭と一頭百參拾圓五十錢平均の馬參百六頭及び各頭平均貳拾圓八錢の羊五百九十二頭を購求せりと云ふ然らば此牧者の總支出金額幾何なるや
- (4) 一時間に八里貳拾町五拾間の速力にて駛る汽車あり今甲停車場を月曜日午前八時に出發し水曜日の午後三時迄に乙驛に着せりと云ふ甲乙兩驛

(大正二年度入學試験問題)

讀書

左の文章中の漢字に片假名にて傍訓を附すべし

人何が故に勤勞するか。衣食の資を得んが爲めなり。人何が故に衣食の資を求むるか。健全なる生活を欲するが爲めなり。人何が故に健全なる生活を欲するか。絶對無限の光明に浴せんが爲めなり。人にして此光明に浴し得ずんば犬猫と何の擇ぶ所やある。濁浪滔々たる闇黒世裡に在りて、迷亂苦悶を免れ、清風掃々たる光明界に遊び得るものは即ち此無限光の賜なり、區別たる誹謗、擯斥、許多の凌辱豈に介意すべけんや、肢軀地に在れ共、靈精天に飛び、慰樂嘆謝の念極まりて、身の存在を疑はしむ。

絶對 (他に對するものなきこと、相對に對して云ふ語)

誹謗 (そしること)

凌辱 (しのぎはづかしむること)

肢軀 (肢は手足、軀はからだのこと)

介意 (氣に掛くること)

書取

- 一、人文の發達は教育にあり、教育の要は智を進め徳を磨き修身齊家に資するに在り
- 二、人は華を去り實に就き、懶惰の陋習を一洗して勤儉の美風を涵養すること力をむべし
- 三、精神の修養は片時も怠るべからず、日常の事總て其資料たらざるはなし
- 四、女子は動作を靜肅にし溫和なること春風の如くなるべしと雖も又凜と

して秋霜の如く侵すべからざる威容を持せざるべからず

作文

火災に罹りし友を慰むる文

算術

- (1) $(16728 + 1087263 + 67963 \div 863) = ?$
- (2) 二人の子供に其體量を尋ねたるに甲は九貫二百三十匁ありと答へ乙は參拾六「キログラム」ありと答へたり何れが何匁重きか
但し十五「キログラム」は四貫なり
- (3) 或人七萬四千二百六十八圓を以て一坪八十五圓の宅地二反六畝二十六歩と一坪一圓三十錢の畑地三反十歩及山林參町五畝歩を買へり然らば山林一坪の代價幾何

- (4) 直徑五間參尺なる圓形の土地の面積は幾平方米なるか

(大正三年度入學試驗問題)

讀書

(左の全文に傍訓を附すべし)
 東北凶作九州慘害救濟會に對し曩に皇室より御内帑金下賜の御沙汰あり猶各皇族よりも夫々御下賜金ありたるが各皇族御息所に於かせられても一層深甚の御同情を寄せ給ひ夫々別當家令に御語りありて二日宮内省宗秩寮總裁室に於ける別當家令會議に提議し妃殿下のあらせらるゝ各皇族方より米百袋施を御下賜相成ることに協議纏りたりと

- (左の字句の意義を記せ)
- 凶作 (農作物のよく實らぬこと)
- 御息所 (皇族の妃のこと)

提議 (意見をもち出すこと)

書取

- 一、虚榮心に富める女子は其の虚飾によりて自己の癡愚を表白し自ら其の品位を賤しくするのみならず心ある人をして嫌忌の情を起さしむ
- 二、嫉妬心は熱烈なる感情を伴ひ來るものにして其の度を過せば不慮の結果を生ずる虞多し
- 三、世に道德あるは人に良心あるに由る、良心は實に道德の源泉なり

作文

初雛を祝ふ文

算術

(1) $(208 + 360) \times 572 = ?$

答 (運算を要す)

(2) $(46362 - 1728) \div 258 = ?$

答 (運算を要す)

(3) 旅人あり三十里ある所に行くに三日間かゝる而して初日には八里拾七町だけ歩み二日目には十二里二十四町だけ歩みたりと云ふ三日目には何程歩みたるか

答 (式、答)

(4) 或る書物を定價の二割引にて買ひ郵税二十錢と合せて貳圓六拾錢を拂へりこの書物の定價何程なるか

答 (式、答)

○北海道支部

(明治四十三年度入學試験問題)

讀書 (一時間)

(1) 我國の憲法(國を保つさそく)は明治廿二年二月十一日紀元節(神武天皇御即位の日)の佳節(よき日)を以て萬民歡呼(國民一同よろこびのこゑ)のうちには發布(國民にしめす)したまひたるものなればわれ等は天皇陛下の大御心を體(わが身にはなさぬ)したてまつり此憲法を遵奉(したがふ)してあやまることなきを期(こゝろにきめておく)せざるべからず

(2) すべて裁判の公平であるか偏頗であるかは國家の威信と臣民の幸福安寧とに大關係のあるものであるがもし其裁判を掌る判事の地位が不安で

あつて容易に行政官吏のために動かされるものとする^{あるひ}或は偏頗な裁判をしないとも限らないから終身官としたのである

右(1)(2)の漢字に假名を附し前文一の講義をなすべし

書取 (一時間)

(1) フーフ (夫婦) のみち (道) はわごう (和合) を以て第一となす互に
あいちよ (愛情) をもと (本) としてけつごう (結合) ししゆうせい
(終生) の侶伴としてゑんまん (圓滿) なるかてい (家庭) を作り以てふ
ぼ (父母) を紹ぎ後嗣を遺しかもん (家門) かけい (家計) のちようき

ゆう (長久) はんえい (繁榮) をはかるべきなり

(2) 博愛衆に及ぼし (愛する心をひろくおほせいの人の上に及ぼす)

(3) 華を去り實に就き (みえをはることをやめて着實なことをする)
右(1) 附線(1)のものは漢字にかきかへ(2)(3)は漢字に假名を附し其大意を講述す

○東京支部

(大正元年度入學試験問題)

讀書

- (1) 人は近所の人より種類の便益を受く學校を設け公衆衛生に注意し道路を修繕するがごときみな近所の人と共同してたやすくなし得ることなり
- (2) 傳染病、肺結核、麻疹、
- (3) 身體、衣服、清潔、
- (4) 食物などを永く捨置きて其腐敗するは、空氣中より腐敗を起すべきなり

(5) クチリヤ落來りて繁殖し其の中の蛋白質等を分解せしむるに因る
生活、病原、胃腸、

右漢字に假名を付し〇〇の漢字には左傍に意義をも記入すべし

書取

- (1) 親切 (難儀)
 - (2) 同情 (救濟)
 - (3) 臭氣 (寢臺)
 - (4) 勞 (惜) ます、回復 (見込) なし
 - (5) 貧民 (施療) し、重傷 (負) ひ
- 右〇〇の處へ漢字を書入るべし

算術

- (1) 大工あり十日間働きて八圓五拾錢を得たりと此の割にて十三日働けば賃錢何程を得るか
- (2) 一反五圓六拾錢の反物を一割二分五厘儲けて賣れば賣價何程となるか
- (3) 三割の儲が九十錢になる品物の原價は幾らなるか
- (4) 甲乙の兩人相距ること七十里なる兩地より同時に相向ひて出發し甲は毎日九里半づゝ乙は毎日八里づゝ進みたりと兩人は幾日の後に出會ふべきか

作文

看護婦入學試験に合格せしを友人に知らする文
 (大正二年度入學試験問題)

讀書

左の文章の漢字に傍訓を附し〇〇の漢字には左傍に意義をも記入すべし凡そ婦人の道は夫を助けて家政を治め、子に教へて家名をあげしむるに在り。此の心は何處如何なる場合にも忘るべからず。人世には思はぬ不幸、驚くべき事變の何時起り來らずとも限らず。平時に於て常に之に處(さばきゆくこと)するの道(方法)を覺悟し置かずば、時に臨みて心亂れ、氣まどひて見苦しき行を爲すことあらん。外温順(おとなしくすなほなること)愛敬の(いつくしみうやまふ)徳を守りて、内確固(かたきこと)たる志操(こころざしのかたきこと)を持し、如何なる事變に際しても、自若(平

氣なること)として其の常を失はざる(ふだんにかはらぬこと)は日本女子の美德なり。

書取

左の——の處へ漢字を書き入るべし

笑は心身の(良薬)なれども、時と場合とによりて笑ふべからざることあり己ひとり樂しとして、他人の悲を思はずして笑ふは(同情)の無き人なり。

(謹嚴)なるべき場合に笑ふは、禮を知らざる人なり。(儀式)公會等の席にて(談笑)をつゝしむは我等文明國民の美風なり。

- (忍耐)
- (懇篤)
- (勤勉)
- (質素)
- (誠實)

算術

(1) 女工あり三日間働きて壹圓參拾五錢の賃錢を得たりと此の割にて一週間働けば何程の賃錢を得べきか

(2) 二十錢銀貨三十九枚を白銅貨に替ふれば何枚となるか

(3) 巾一尺、長二丈八尺の布をたちて巾七尺の布切幾本を得べきか

(4) 左の式を計算せよ
(18×27-105)÷6+95=3

作文

友人の母の病氣を見舞ふ文

(大正三年度入學試験問題)

讀書

己の寒きときは、人も寒かるべしと思ひ、己の飢うるときは、人も飢うべしと思ひ、何事も、己の身に比べて、人の上を思ひ遣り、人の好む所を施し、人の厭ふ所を避くるは、最も大切なることにて、親に孝を盡すにも、夫に貞を竭すにも、此の心ありてこそ、誠の人とは云ふなるべし

左の字句の意義を記せ

習慣(ならばし) 清潔(いさぎよきこと) 柔順(すなほなること)

博愛(ひろく愛すること) 國憲(くにののり)

書取

- 一、品位は、身分の貴さと、賤しきとに關らず、凡そ人たる者は、均しく重んずべき者なり
- 二、行を謹みてみだりがましき事なからんとするは男も女も異なることなけれど女は一層此に注意せんことを要す
- 三、國民たる者は、男女老少を問はず國の制度を能く守り假初にも之に違ふべからず

算術

- (1) 土方七人にて賃金參圓拾五錢を得たりと云ふ此割合にて賃金六圓七拾五錢を得んには土方何人を要するや
- (2) 密柑壹個金五厘のもの二十個と同八厘のもの十五個と同六厘のもの十

三五
五個とを仕入れ十五錢の利を得て之を賣らんには壹個平均何程に賣りて可なるや

- (3) 甲乙二人の職工あり甲は七日間乙は十二日間働きて賃金拾五圓二十錢を得たり之を働きたる日數の割合にて分ければ甲乙の所得何程なるか
- (4) 田五反歩より米二十俵を收穫すとすれば百五十俵の收穫を爲さんには幾反歩を要するや

作文

博覽會に友を誘ふ文

○京都支部

(第八回入學試験問題)

讀書

古の戦争は、概ね敵を殺すを以て、主要なる目的としたりしがと、近年に至りては、戦争の術大に進歩して、唯、敵に戦ふべき力を失はしめむことを務め、捕虜の如きも、既に、抗敵心なき者は、鄭重に待遇して、之を殺すが如きことなし、殊に文明の諸國には、各、赤十字社と稱するものありて、互に、條約を結び、若、同盟の二國、戦端を開く事ありとも、負傷兵、及び病兵に對しては、彼我共に之を救護すべき規定なり、されば甲國の軍勢、乙國の病院を圍むことありとも、赤十字の標章あるを見る時は、決して、之を捕獲することを得ざるなり赤十字社は今より四十餘年前クリミア戦争とて英露二國の間に戦起りし時、英國の婦人ナイチンゲールが奮ひて、戦地に赴き負傷兵を治すは、病兵の看護に従事したるに萌し、が後又、ソルフェリノの大戦に埃佛伊三國の兵數十萬伊太利の原野にて連

日連夜苦戦せし時瑞西國のアンリー、ヂユナンといふ人親しく戦地に赴きて負傷者等が困苦の慘状を目撃し直に一書を著して世人の注意を促したるより有志の人々瑞西國ゼネヴァ府に會し此處に一社を設けて戦時に於ける傷病者の救護手段を議することとなり、是れ、實に赤十字社の濫觴ともいふべきものにして、後我が文久三年、終に廣く各國の同志者を招きてゼネヴァ條約を締結し此地に萬國赤十字中央部を置きて各國の諸社と互に連絡を通じ、其の基礎ますます、鞏固なるに至れり。

四〇

書取

我邦に於て明治十年西南の戦争に際し負傷者、病者を救療愛護する目的を以て博愛社を組織せしが亂平ぎて後之を永設の一社とし平時務めて種々の準備を整へ事ある日、救護の事に従はむことを期したりき。然るに明治十九年我が政府ゼネヴァ條約に加盟せしを以て此社は政府の認可を得、日

本赤十字社と改名して、萬國赤十字中央部と交通を開き、天皇皇后兩陛下の御保護の下に専ら報國恤兵の事をつかさどり、傍ら天災地變の際に、傷病者の救護を務むるに至れり。日清戦争に際して此社が一般に軍人救護事業に従ひしが、今や又た日露大戦争に當りて海陸共に終日、通夜、多數の傷病者の救護事業に盡力しつゝ、あるはあまねく人の知るところなり。

算術

- (1) 兵卒あり毎日十二里宛の行軍する時は十日にて達し得べき行程を今毎日十五里宛行軍する時は幾日にして達し得べきか
- (2) 大小兩數あり小數は大數の五分の三にして其差は八十なりと云ふ各の數如何
- (3) 今一千本の卷貫を出征軍人に分與せんとするに當り先づ下士百四十名

に向て何本か宛を與へたるに何本かを餘せりよりて更に此残りたる數に三千三百五十本を追加して兵卒八百四十人に四本宛を贈與せしに十本を餘せりと云ふよりて問ふ下士は各々何本宛を得たるや

作文

某豫備病院に勤務中の赤十字社看護婦を訪ふ文

(第九回入學試験問題)

讀書 (一時間)

(左の文字に傍訓を付す可し)
日本赤十字社は 帝室御保護の下に立ち宮内陸海軍三省の監督を受け報國恤兵の業務を執り戦時事變に當りては直に救護團を組織し彼我の負傷者及病者を救護するを以て主義とす且平時に在ても災害の爲め多くの傷病者

を生じたるとき亦之を救護する者とす救護團を組織するには理事以下各種の人員を要すと雖も其内最も多數の人員を要し其手足と恃む所の者は看護者とす是れ看護婦養成を必要とする所以なり
看護婦は常に身體の強實健康なるを要するのみならず精神も亦確乎不拔にして學術に通明精熟ならざる可らず抑他人の病苦を慰撫し治術を補助するの任に當る者は時宜に従て終日通夜事を執て寸隙を得ざることに頗る多し
病弱菲薄の身體虚憊の精神を以ては決して堪ふ可らず是れ看護者には老若中を得天賦強健にして宿痾なき者を選ふ所以なり

(左の文字に解釋を付す可し)

- 報國恤兵 (くにのためをおもうてぐんじんをあはれむ)
- 確乎不拔 (しかとこゝろにきめてかわらぬ)
- 慰撫 (なぐさめいたわる)
- 虚憊の精神 (とりえなきおくびやうなるこゝろ)

宿 痾(ぢびやう)

作文(一時間)

看護婦生徒入學試験合格を賀する文

書取(一時間)

日本赤十字社看護婦の大切なるは品行節操に在り一たび品行を破り節操を失ふことあるときは善行一時に消滅して名譽は忽ち地に落つ故に勤務中と否とに論なく内に在ても必ず之を慎み外に在ても必ず之を戒め寸時も忘るべからず
看護婦は傷病者を看護して其苦患を軽減するの任に在るものなるを以て食物被服の粗悪は勿論劇務の爲め夜を徹する等のことあるも決して不平を鳴すべからず

算術(一時間)

- 一、金三百五拾圓を甲乙二人に分配するに當り甲は乙より金七拾貳圓多く與へんとす然るときは各幾何
- 一、兵卒あり毎日十二里宛行軍する時は十日にして達する行程を毎日十五里宛に行軍せば幾日にして達するや
- 一、五人にて一日四畝二十五歩を耕すときは一人一日に何歩耕すや
- 一、林檎百八十五個あり二人に對し七個宛の割合を以て十六人に分與するときは残何個なりや

(第十回入學試験問題)

讀書(一時間)

(左の文字に傍訓を付すべし)

日本赤十字社の主旨とは何ぞや報國恤兵即ち君に忠に國に報するの精神を以て本體とし之を擴充して人類相愛し相助くる慈善の誠意を盡すに在るのみ此主旨を達せんとするは如何なる場合と如何なる時期に在るか蓋し一朝不測の變に臨み陸海軍軍人が總國民の義務責任を代表し生命身體を彈鋒鎗の間委ねたるの時より甚しきはなかるべし試みに思へ兩軍の相衝突する彈丸は霰の如く飛び硝煙は雲の如く起り血を蹀み屍を超え貴重生命を以て犠牲に供し奮撃突進し或は烈日炎暑を犯し險山峻壑を攀ち或は風雨霜雪を忍び平原曠野に屯し疾病に耐へ傷痍を裹み以て國家の名譽を保護し以て國民の幸福を維持し進死を榮とし退生を辱とするは軍人の尤も榮譽とする所なりと雖も其辛苦艱難は實に察するに餘りありと謂ふべし斯る大切なる場合に於て軍隊衛生部の職務を補助し傷病者の救護看護に従事するは日本赤十字社救護員の本分なりとす
(左の文字に解釋を付すべし)

慈善の誠意 (ひとをわれみよきはたらきをするまごころ)
一朝不測 (おもひがけもなくいくさなどのおこる)
奮撃突進 (いきほいよくてきにむかつてすむ)
險山峻壑 (けはしくたつたやまやふかきたに)
辛苦艱難 (つらきなやみ)

作文 (一時間)

看護婦の勳章拜授者を賀する文

書取 (一時間)

凡そ軍人たるものは戦時に在ては父母妻子に別れ辛苦艱難を意とせず身を犠牲に供して忠節を盡す者なり日本赤十字社救護看護婦は此等軍人の傷病者を看護して其苦患を軽減するの任に在るものなれば直接には其人を助け

間接には其國を利し慈仁忠誠兩つながら之を能くするに於ては其功勞は彈丸雨注の間を馳驅する所の軍人に比し相譲らずと謂ふも可ならん婦人にして戦時勤務の一部に服事することを得るは洵に名譽と謂はざるべからず

算術(一時間)

- 一、金百六拾五圓を甲乙二人に分配するに甲は乙より金參拾五圓多く受取りたりと云ふ各幾何
- 一、十日にて仕上ぐるに三十人を要する事業を六日にて仕上ぐるには何人を要するや
- 一、一町の道路を歩行するに五分間を要す然るときは一里十町の道路を歩行するには幾時間を要するや
- 一、甲は金五百圓、乙は金三百圓、丙は金二百圓を出金し商賣を始めたるに一年の後金百七拾圓の利益を得たりと云ふ之を出金額に應じ分配する

ときは各幾何

(第十一回入學試験問題)

讀書(一時間)

(左の文字に傍訓を付すべし)

凡そ看護者は慈仁惠愛の心を基となし患者の不幸を憐み苟くも病者に益ある所は細大となく躬を忘れて之を行ひ懇篤深切なること猶ほ慈母の愛兒に於けるが如くなる可し假令終日通夜看護に従事して疲勞し不快汚穢の事を執り或は天災地變に際して百難交々起るも益々勇氣を振て能く之に堪へて屈することなく己が任務を盡し常に醫員及他の長者に對しては眞に服従の意を以て之に接し其命令示導を遵守して聊も戻ることなく又患者に對しては言語動作を温和にして常に之を慰撫して安心慰樂を得せしめ且注意周密にして毫も等閑に看過することなく作業は極めて敏活にして隨時事に從

て聊かたりとも怠慢粗漏に流れざることを勉むるは看護者たるものに於て
最大一の要務なり其他貞操節義を重じ品行を端正にし謙退辭讓靜肅寡言な
るは婦徳の本なり

(左の文字に解釋を付すべし)

懇篤深切 (ねんごろにあつく心實にものごとをする)

注意周密 (きをつけることこまかくしてゆきわたる)

貞操節義 (みさを守り義を立つること)

謙退辭讓 (へりくだりゆづる)

靜肅寡言 (しとやかにして言葉すくなきこと)

作文 (一時間)

救護看護婦生徒卒業を賀する文

書取 (一時間)

日本赤十字社は畏くも 皇后陛下御眷護の下に立ち萬國赤十字社と提携し
て普く御仁徳を中外萬國に輝かさんとする者にして其主旨たるや戦時に在
ては凡そ傷兵病卒は彼我の別なく一視同仁之が苦惱を救ひ又平時に在
は病院を常置し一般人心の疾苦を濟ひ傍ら學術を練磨研究して事變に應ず
るの準備をなし以て聖慮に答へ奉るに在り之を以て本社之看護者たるもの
は其任重くして其身貴きこと尋常看護者の比に非ざるなり

算術 (一時間)

- 一、兩數の差八十五にして其大なる數二百なるときは小なる數幾何なるや
- 一、書籍あり壹頁の字數は二十八行二十八字詰にして紙數二百五十枚なり
然るとき其總字數幾何なるや但壹枚は貳頁なり

一、甲乙の汽車あり毎時の速力甲は十六哩乙は十七哩なり今兩停車場より同時に相向て出發し七時間にして相會せり兩停車場の距離幾哩なるや
 一、某數の七倍に十五を加ふれば百六十二となる某數如何

(第十二回入學試験問題)

讀書(一時間)

(左の文字に傍訓を付すべし)
 女子は我國の制度に依りて直接軍務に關係することを許されざるが故に義勇公に奉ずるには只後援事業に依りて間接に君國の爲めに盡すの外他に途なきにも拘らず日本赤十字社看護婦のみは男子と同じく直接軍務に服し且軍人に準ずるの待遇を與へられ身を以て君國に殉ずるを得るのみならず功績を擧ぐれば則ち軍人に準じて勳章を授與せられ職務に斃るれば靖國神社に祀らるゝといふ恩典に浴するを得ればなり女子として此の如き特別の地位

を附與せらるゝは只日本赤十字社の看護婦たるが爲めのみ、日本赤十字社看護婦の地位たる眞に貴きものならずや
 (左の文字に解釋を付すべし)

- 制(ほらりつきそく)
- 待遇(みぶんにともなふとりあつかひ)
- 後援事業(うしろだてとなりてたすけるしごと)
- 功績(てがら)
- 義勇公に奉ず(きをふりたてゝくのためにつくす)

書取(一時間)

日本赤十字社の看護婦は如何なる傳染性の患者に接するも決して恐るることなく懇篤親切に看護し、又汚物を取扱ふ場合の如きも決して厭ふの色なく慎重に其の處置を爲すの心得なかるべからず傳染病は固より恐るべきも

のには相違なしと雖も相當の豫防法あり乃ち其法を盡さば更に恐るべきものに非ず。されば本社看護婦たるものは此の如き患者に對しては寧ろ一層深き同情を寄せ懇切に看護せんことを望ましけれ。若し衷心より患者に同情せば我身の危険の如き殆んど考ふるの違なきなり本社看護婦たるものは身を殺して仁をなすの勇氣なかるべからず

作文（一時間）

救護看護婦生徒として入學を友入に報知する文

算術（一時間）

一、豫備病院外科病室に五十六名内科病室に四十八名の現在患者あり今外科患者二十三名内科患者二十八名を他へ轉送し新に外科患者十八名内科患者十六名入室せり現在患者何名なるや

- 二、入院患者百八十七名あり毎日一名に付牛乳三合鶏卵二個宛を要するときは入院患者七日間に要する牛乳及鶏卵幾何なるや
- 三、甲病院より三百五十八名乙病院より二百八十五名の後送患者あり内四十三名は輕症者にして他は重症者なり今其重症者を三個の日本赤十字社救護班に收容せば一個救護班幾人の收容患者となるや
- 四、日本赤十字社救護看護婦災害救護の爲め召集せられ十六日間勤務し手當金拾四圓四拾錢を支給せられたりと此割合にて二十五日間勤務するときは何程の手當を支給せらるゝや

（第十三回入學試験問題）

讀書（一時間）

（左の文字に傍訓を付すべし）
看護の學たるや元來醫學中の一科目にして一は醫療を輔翼して其効績を全

からしめ一は病者を慰撫して其苦惱を免れしむるの方法を講ずるの學なり
 故に苟くも此學に通明にして之を實地に施し過なからんと欲せば多少才
 識を備へ且つ醫學の全部に亘りて其大意を收めざる可らず又假令學識全備
 にして技術熟練なるも身體強健、仁慈厚篤、注意周到温行篤實にして能く
 病者を惠愛慰撫し醫士の命令に服従して之を嚴守する人に非ざれば亦以て
 適當の看護者と爲す可らず抑も我日本赤十字社なるものは畏くも皇后陛下
 下御眷護の下に立ち萬國赤十字社と提携して普く御仁徳を中外萬國に輝か
 さんとする者にして其主旨たるや戰時に在ては凡傷兵病卒は彼我の別な
 一視同仁之が苦惱を救ひ又平時に在ては病院を常置し一般人民の疾苦を
 濟以傍ら學術を練磨研究し或は公衆の災害に際し傷病者を救護する等以
 て聖慮に答へ奉るに在り之を以て本社の看護者たる者は其任重くして其身
 貴きこと尋常市井に在て此業に糊口する者の比に非ざるなり
 (左の文字に解釋を付すべし)

醫療 (いしのれうち)
 効績 (はたらきのけつか)
 注意周到 (きをつけることこまかくしてゆきわたる)
 惠愛 (ほどこしてひとをあいする)
 嚴守 (かたくまもる)

書取

- (1) 日本赤十字社は報國恤兵を経とし以て忠愛の實を擧げ博愛慈善を緯とし以て人道の誠を效す是を主義の大綱と爲す
- (2) 赤十字社の看護婦は實に三重の地位を有す即ち第一は赤十字社に對するの地位第二は國家に對するの地位第三は社會に對するの地位なり
- (3) 日本赤十字社の看護婦は戰時の救護勤務に服する場合に際しては女子

の身を以て軍人に準ずるの待遇を受くるといふ特別の地位を國家より附與せられ居るものなり

- (4) 誠實 勤勉 忍耐 志操 勇氣 沈著 溫和 愛敬

作文 (一時間)

救護看護婦生徒志願を父母に相談する文

算術 (一時間)

(各題毎に式、運算、解答を記せ)

- (1) 救護看護婦臨時救護の爲め召集せられ日給金八拾錢を支給せらる而して夜業をなすときは金貳拾錢を増給とす今貳拾日間勤務せし内七日間は夜業をなしたりと然るときは此日給金總額及平均一日分の金額幾何なるか

- (2) 傷病兵六百八十二名あり内貳百四十名は兵站病院に收容し貳拾名の看護人之を擔當し其他は豫備病院に後送して貳拾六名の看護婦を以て擔當せり然るときは此の看護人と看護婦との各壹名の受持患者數幾名なるや

- (3) 救護看護婦あり巻軸帶を巻くに一時間に平均廿五卷を巻く、今毎日午前九時より午後四時迄月曜日より土曜日の正午まで之を巻くときは何程を巻くか

- (4) 入院患者六百五十六名あり内三百貳拾六名は内科患者にして外科患者の六分の一は重傷者なり此重傷者壹名に付毎日貳合五勺宛の牛乳を要するときは七日間の牛乳費消高幾何なるや

(第十四回入學試験問題)

讀書 (一時間)

(左の文字に傍訓を付すべし)
 日本赤十字社救護看護婦は即ち本社の主義精神を實行する爲め戦時及平時
 災害發生等に際して救護事業に任ずるものなり戦時は言ふまでもなく平時
 に於て起れる天災事變等の如きも小なりとは云へ矢張非常の場合なれば其
 救護に従事するものは或は種々なる困難と戦ひ或は幾多の艱苦を嘗めざる
 べからず又物資缺乏の場合には或は粗食に甘んぜざるべからず或は夜具な
 くして寝ねざるべからず宿すべき家なき時は或は露營もせざるべからず而
 して自己の不自由は總て之を忍びて患者には出來得る限りの満足を與へざ
 るべからず是豈に奢侈を事とし放縱を事とし安佚を事とし心身に柔弱に
 陥れるもの能く耐へ得る所ならんや日本赤十字社救護看護婦たるもの
 が非常の場合に方りて其任務を全うする爲め平常固く質素の徳を守りて大
 に艱苦を忍び缺乏に耐ゆるの力を養成し置くことを必要とする所以は實に
 此に在るなり

(左の文字に解釋を付すべし)

天災事變 (天災とは洪水地震つなみなどのわざわひ事變とは汽車汽船の衝
 突沈没又は群集等のためにおこるわざわひ)

物資缺乏 (にちようのしなふそくする)

艱苦 (なやみつらみ)

食 (そまつなたべもの)

侈 (おごり)

縦 (わがみかつてにしてつゝしませ)

佚 (なまけてはたらかぬ)

弱 (ぐすくしてはたらきのない)

素 (じみにしておごらぬ)

書 取 (一時間)

日本赤十字社の救護看護婦は戦時の傷病者を彼我の差別なく救護すべき任務を有するものにして之を取扱ふ場合には特に一層の懇篤深切を要するものあるを以てなり夫れ普通の患者と雖も其の苦み惱めるを見ては大に同情すべく之を取扱ふには勿論懇篤深切を以てすべし然るに戦時本社救護看護婦の取扱ふべき患者は普通のものにあらずして君國の爲めに戦ひて或は傷を受け或は病める忠勇なる軍人なり又彼れとて我軍人と同じく自國の爲めに身を捧げたる敵の傷病軍人にして不幸にも我の手に陥りたるものなり其境遇眞に憐むべし是等彼我軍人を看護するに於て豈に尋常の懇篤深切にて可ならんや

作文 (一時間)

日本赤十字社救護看護婦生徒志願を友人に勧誘する文

算術

- (1) 縹帶木綿一人に付巾五寸長さ八尺五寸を要すとして十八人分を買入れんとすれば並巾即ち一尺巾にて何程を買ふべきや
- (2) 或看護婦患家の雇傭に應じ百二十日間勤務し料金九十六圓を得たり其内一割五分を以て必要品を購入し殘金を貯金銀行に預け入れんとす然るときは貯金額及購入金額各幾何なるや
- (3) 爰に傷病兵若干名あり其五分の一を兵站病院に收容し他は豫備病院へ後送す而して傷病兵一人一日の費用を平均三十五錢とせば總計貳百九拾七圓五拾錢を要すと然らば若干の傷病兵とは幾名にして兵站病院收容人員は幾名なるや
- (1) 四百二十五尺ある道路の兩側に各五尺づゝの間隔を以て看護婦一人を整列せしむれば總計幾名の看護婦を要するや

○大阪支部

(大正二年度入學試験問題)

讀書

- 一、蝶は花の蜜に養はれ花はまた蝶の媒介によりて花粉の傳達を受け其實を結ぶもの多ければ兩者間の關係の親密なることは素よりいふまでもなし
- 二、日清戰爭に際しては日本赤十字社が一般軍人軍屬の救護事業に盡力せしことは普く人の知るところなり特に清國は未だ、この條約に加らざるのみならず清兵の我負傷兵を待つこと頗る殘忍なりき
- 三、平素(いつも)も又はふだん)多忙(いそがしい)にして殆ど寢食(ねたり、くふたり)するの暇(ひま)だになし

交際(つきあひ)は徒に金錢を消費(つかふ)せんよりは寧ろ親切なるをよしとす。

以上漢字に假名を附し特に(三)に限り意義を略記せよ

作文

看護婦生徒を志願せしことを友に知らす文

書取

- 一、我等は良妻賢母となりて樂しき家庭を作らん
- 二、衣服の要は身體を保護し運動に便なるものをよしとす
- 三、袖 裾 足袋 下駄 鍋 炭 薪
- 四、兄弟姉妹 電車 道路 海陸
- 五、四方山の話 田舎の風景 散歩

算術

- 一、白米壹升の代價貳拾五錢五厘なり今毎日四升五合宛を費すとせば一ヶ月間(三十日)の總米代何程なるか
- 二、甲乙二人あり各同日に貯金を始め毎日甲は貳圓五拾錢宛乙は壹圓八拾錢なりしが若干日の後其差額八拾六圓拾錢となれりといふ、そは始めしより幾日の後か
- 三、或人金五百圓を有し消費する事八拾六日にして殘金三拾四錢となれりと云ふ其消費平均一日に付何程なるか
- 四、 $(1231 - 27 \times 34)$
- 五、 $(12 \times 13 + 288 \div 12) \div 23$

(大正三年度入學試驗問題)

讀書

- 一、身體如何に健全なりとも之と共に高尚(けだかい)の精神(こゝろ)を有するにあらずば人たるの價值(ねうち)を得ること能はず、我等自ら誇りて萬物(あらゆるもの)の靈長(かしら)と稱する所以は畢竟他の動物の有せざる高尚の精神を備ふるに由るなり
- 二、英佛獨の人(イギリス、フランス、ドイツの人) 山海の珍珠(山や海からあさつて來ためづらしいもの) 以上漢字に假名を附し單柱を附せる字句の意義を記述せよ
- 三、雨だりに、くぼみし軒の石見ても、かたき業として思ひすてめや(解釋に及ばざるべし)

右御製の大意を謹述せよ

作文

出産を賀する文

書取

- 一、天災地變
- 二、職務勉勵
- 三、智識交換
- 四、家庭の状況
- 五、和氣清磨

- 慈善事業
- 身體強健
- 郵便配達
- 煙草益
- 菅原道真

- 親切
- 營業
- 旅行
- 紅葉
- 秋の紅葉
- 訪問

算術

- (1) 白米壹斗五升代三圓拾五錢とせば四斗二升の代は何程なるか
- (2) 甲乙二人あり甲は毎日西に向て七里づゝ行くこと八日間乙は毎日東に向て五里宛行くこと四日間にして相逢ひたりとせば甲乙二人の出發點の距離何程なるか
- (3) 市外電報假名八十三字の電信料何程なるか
- (4) 但し拾五字に付貳拾錢餘は五字を増毎に五錢とす

33×4+125÷5=57

○神奈川縣支部

(明治四十三年度入學試驗問題)

讀書

村岡良叔の妻

江戸の人村岡良叔が妻いく女は、節儉ををもんじ、奢侈をにくみ、つねの言ばに、世の中の人の、家をたもつことあたはざるは、多くは、婦人のおごりおこたりよりはじまるをもつて洒掃より調食にいたるまで、皆、みづから手足を勞すべしといへり、又、數年前のことをもよく心に記し、吉凶などのやりとりより、日々の衣食にいたるまで、新舊を斟酌して、そのほどをあやまらざりしとなん 儉なるときは家富み、奢るときは家貧し

- 一、慈愛にして懇篤なること
- 二、忍耐にして屈撓せざること
- 三、柔順にして規則命令に服従すること
- 四、温和にして患者の慰安に努むること
- 五、周密にして作業に敏捷なること
- 六、謹慎にして品行方正なること
- 七、謙讓にして勤勉なること

- 八、靜肅にして寡言なること
- 九、質素にして華奢に流れざること
- 十、誠實にして廉潔なること

書取

女、家においては、母を重しとし、嫁しては姑を重しとす
 人はその身位の尊卑を問はず、己の國を裨益することを怠るべからず

算術

- (1) 鉛筆一打三十六錢なるときは一本の價若干なるや
- (2) 患者一人二日分の水薬は二十一錢なりと云ふ患者五人三十日分の薬價は何程なりや
- (3) 十二個にて六錢の密柑を五十錢求むるときは密柑何個を得べきか

(4) (137 × 24) ÷ 17 =

作文

入學を父母に報ずる文

○兵庫支部

(明治四十三年度入學試験問題)

讀書

女子なりとて志あるものは義氣と博愛の心なくんばあらず義氣とは事あるに臨みて進み勵み人に後れざるけなげなる氣象を云ひ博愛とは人を愛し人を憐み又施し恵むことを云ふなり誠の人たらんと欲せば能く私を後にして公を先にし己あることを忘れて人を救はざるべからず

書取

- 一、少女世界第一號御貸し下された度候
- 二、言語を慎み多辯すべからず
- 三、忠孝、敬愛、信義、忍耐、

算術

- (1) 兒童あり、壹冊三錢五厘の手帳を一人に三冊宛十五人に與へんとす其總金高幾何
- (2) 白米壹斗五升の價金二圓七十錢なるときは其四斗の價幾何
- (3) 兩艦の距離十八里にして前艦は毎時八里の速力にて之を追ふ依て問ふ幾時の後後艦は前艦に追ひ着くべき哉

作文

日本赤十字社看護婦採用試験に及第せしを友人に報ずる文

○長崎支部

(明治四十三年度入學試験問題)

讀方

人の一生は重荷を背負いて遠路(えんろ)を行くが如し必ず急ぐ可らず不由を常と思へば不足なし心に望み起らば困窮(こんきう)の時を思ひ出す可し堪忍(かんにん)は無事長久(ちようきう)の基(もと)もとの怒は敵と思ふ可し右の文章を解釋すべし
但し圈點を付したるものは左傍に音訓を施すべし

書取

吾人は風雨寒暑を防ぐために衣服の他尙ほ家屋を必要とす家屋は衛生上大なる關係を有するのみならず國家の基礎たるべき家族の生活場所にして其構造の如何は文明の程度を測定すべき一の寒暖計なり

算術

- (1) 或人壹錢五厘の密柑十四個、七錢の林檎四個、六錢の梨子三個を買ひしに殘金尙二十八錢を有せしと云ふ最初若干を有せしや
- (2) 小麥四斗の價三圓二十錢なるときは三斗を買ひ得る金を有せり然らば此金を以て三斗四升の五圓十錢の白米幾干を買ひ得るや
- (3) 甲乙自轉車に乗り甲は一時間に七里乙は五里を走ると云ふ甲乙同時に出發し十二時間を走りし時は甲乙の距離の差幾干なりや

作文

花見に友を誘ふ文

○新瀉支部

(明治四十三年度入學試験問題)

讀書

(1) 左の文の○に漢字を填入せよ

甲、○○(肺病)にかゝり○○(目下)○○○○(大學病院)に入院中の佐藤君を○○(訪問)せしに○○(醫師)の言によれば○○(全快)の○○(見込)は○○(殆)どなしと云ふ

乙、今日は○○(天氣)が○○(好)いから○○(私達)は○○(遠足)に出かける○(積)です之れ故○(急)いて三人分の○○(辨當)を○○(用意)して下さい

(2) 左の漢字の讀方及び訓釋を問ふ

辛苦(つらいくるしみ) 豊年(あきのかりいれおほきとし) 慈善事業(ひとにめぐみてよきをするしごと) 意見(かんがへ) 征伐(せめる)、信用、才學(うまれながらのはたらきとがくもんのちから) 勤王(てんのうへい) かのあたためをつくす) 艱難(なやみ) 留學生(ぐわいこくにゆきてがくもんをするひと)

書取

女子の容儀は人のふとうち向ひたらん時、美しとは見ゆとも、氣高く奥ゆかしく見ゆる所なきは、女子の最も耻づべき事なり、髪のかたち、衣紋つき、皆端正清雅にしてうち見む人のめでたしとは思ふものから、さすがに

悔り難く尊敬の心を生ずるやうにあるべし、されどこれも殊更に人の愛敬を求めむとする時は、なかくに卑しく見なされるものなり、ただ其の心神純一にして其の容儀清雅ならば、決して人に悔り辱めらるゝ事あるべからず

算術

- (1) 五人の工夫を四日間雇ひたる賃金が十圓なるときは八人を七日間雇ふには何程の賃金を要するや
- (2) 或る地の震災に負傷患者多数あり日本赤十字社は之れが救護の爲め百六十名の看護婦を出張せしめ患者百名に對し看護婦二十名を配置せりと云ふ負傷者幾人ありしや
- (3) 相距る九町なる二の柱の間に三十間毎に柱を樹つるには幾本の柱を要するや

作文

看護婦生徒志願の爲め父兄に許可を求むる文

○埼玉支部

(明治四十三年度入學試験問題)

讀書

凡そ人の病に侍するものは至慈至愛の心を以て其憂悶を慰藉し其苦痛を軽減することを務めざるべからず戦時軍人の傷病者に於けるは最も深切懇到ならんことを要す夫れ軍人は國家の爲めに躬を捐て命を殞すを以て職と爲すものなり若し不幸にして創痍を被り疾病に罹るも親族故舊の之に侍するなく頼る所の者は獨り醫員と看護者あるのみ故に看護者たるものは其親

八〇
族故舊に代り心を盡して之を扶持し速に輕快に就かしむべし本社報國恤兵の意蓋し亦之に外ならず然れども看護法あり攝養度あり豫め之を講究習熟するに非ざれば假令滿腔の慈愛心あるも何を以てか其成效を望むべけんや

書取

人の世に在るや元其性を天より稟けたるものなれば之を保全して其壽を終るは天に對する務なりと云ふべし。而して其務を完うするには平生専ら衣食住に心を用ふべきは論を俟たず若し不幸にして病に罹らば速かに醫師に託し治療看護して夭折を免るゝは亦其務の一と云ふべきなり

算術 (二時間)

(1) 松竹梅の三種合せて一千五百五十四本あり内竹は三百七十二本にして

- 餘は松梅の兩種とす而して松は梅より一百五十本多しと云ふ然らば兩種各幾何本なるや
- (2) 反物あり三十八反にて五十七圓なり今每反前價より金十五錢廉價にて二百七十九反を求むるときは此價金幾何なるや
 - (3) 物の數一千七百八十八個あり之に七千四百七十六個を加へ七十二を乗じ一百四十四を以て除すれば幾何なるや

作文

軍人の寡婦を慰問する文

○群馬支部

(明治四十三年度入學試験問題)

讀書

富貴長命は皆人の望む處でありますが、身體が虚弱で嗜好の飲食も心の儘ならず終始藥用を廢し難き状態の有つたならば家門の貴きも財産積て山をなすも其甲斐なき次第で獨り其人の不快計りてなく一家の不幸此上もなき事となります衛生法は身體を壯健にする手段看護は疾病に罹つたとき速かに快復せしむる方便でありますから何は偕て置き此二者は人たるもの、第一に知得し居らねばならぬ事柄でありますが特に家事を取扱ひ子女の養育を主とする婦人には一日も其心得なくて叶はぬ事有ります故に將來家内の主婦となり一家の健康を自任せしめねばならぬ嫁の選擇には其品性學問體格と共に此素養如何をも詮索するの必要があります

書取

看護婦たるものは、常に身體の強健なるを要するのみならず精神も亦確實にして左の事項を備へざるべからず

- 一、慈仁にして懇篤なること
- 一、忍耐にして事に屈せざること
- 一、柔順にして命令に服従すること
- 一、溫和にして患者を慰撫すること
- 一、周密にして作業に敏活なること
- 一、貞操にして自ら重ずること
- 一、謙讓にして婦徳を脩ること
- 一、舉動靜肅にして多辯ならざること

算術 (一時間)

- 一、大工あり一週間と三日間にて賃錢六圓五十錢を得たり此割合にて賃錢

十三圓を得んには幾日間働くべきか
 二、人あり石油八升を買ひて金一圓を拂ひたるに向二升の代と金五錢不足すと云ふ一升の價何程なるや
 三、或る人東府を發して西府に向ひて行くに毎時歩行の里數は二里なり然るに此人東府を發したる後二時間を経て毎時六里を馳する馬車東府を發して西府に向ひて馳せ行けり依て此人は途中にて此馬車に乗り西府に達せしに其時は馬車に乗りたる時より二時間を経たりと云ふ然らば東西兩府の距離幾何

作文

友人に共進會見物を勧誘する文

○千葉支部

(明治四十三年度入學試験問題)

讀書

女史は、患者の臥床を巡回して或は扶け或は勵まし、或は慰めなどして看護に心をつくし夜は燭を手にして病者を訪ひ慈愛懇切至らざるところなかりし
 尊敬友愛の心深く仁義を重んぜよ

書取

讀書と同文

算術

- (1) 平時に於て一師團の歩兵數は二旅團一旅團は二聯隊一聯隊は三大隊一大隊は四中隊一中隊は四小隊よりなる然らば一師團の歩兵總計幾小隊なるか
- (2) 大小二數あり其和は百にして其差二十四なるとき二數各幾何

作文

日本赤十字社千葉支部救護員養成所へ入所せる目的を友人に知らせる文

○奈良支部

(明治四十三年度入學試験問題)

讀書 (一時間)

左の文章の漢字に假名を附け且全文を解釋せよ

一、博愛(かぎりなきあい)とは人々あひ親愛(むつまじくあいする)する天賦(うまれつき)の感情(かんじやう)こころもちより出づるものにて、社會的(しやう会的)道徳(どうとく) (じんるゐいつばんよきおこなひ)の根源(こんげん) (もと)となるものなり

二、人は生れながらにして我身を愛し我家を愛し我國を愛するの情あり故に國民にして本國を愛する心なくば國家は一日も安(おだやか)きこと能はず隨(したが)つて家も身も安きこと能はじ然れば本國(ほんこく) (おのれがくに)を愛する心は人道(じんどう)の要務(ようむ) (かくべからざるつとめ)とこそ謂ふべけれ

書取 (三十分)

左の熟語を正字に書換へよ

りより(料理) つけもの、(漬物) けしよー、(化粧) せんたく、(洗濯)、ちそー、(馳走) いんざつ、(印刷) ぼーせき、(紡績) たばこ、(煙草) せいしん、(精神) さいさ(委細)

算術(一時間三十分)

- (1) $(15 \times 27 - 105) \div 5 + 34 = ?$
- (2) $(\frac{1}{2} - \frac{1}{3}) \times \frac{2}{5} + \frac{1}{4} = ?$
一、二、は運算を記すべし
- (3) 吳服商あり一尺金廿四錢の絹三丈物七反を同商に譲り其代りとして一尺金卅六錢の友染縮緬三丈五尺物幾反を受取らば過不足なきや
- (4) 甲乙二童同所より同方向に走るあり毎分時に甲は十二歩乙は九歩づゝ進む而して乙七分時走りたるとき甲走り初めたり夫より幾分の後甲は乙に追ひ及ぶべきや
- (5) 姉妹等金を持ちて毛糸を買ふに姉八「オンス」を取り妹五「オンス」取りたる爲め姉より妹に九錢戻したりと云ふ然らば毛糸一「オンス」の代何程にして各幾錢宛持てりや
- (三、四、五) 運算及説明すべし

作文(一時間)

我が志望を友人に報する文

〇三重支部

(明治四十三年度入學試験問題)

讀書

我が日本赤十字社は報國恤兵を經とし以て忠愛の實を擧げ博愛慈善を緯とし以て人道の誠を效す是を主義の大綱とす抑我が赤十字社が戦時に於て傷病軍人を救護するは其の意主として國に報いんとする微衷に出づ蓋し軍人は國家の干城にして我が天皇陛下の股肱とし給ふ取なり一朝事ある

九〇
に際し一般國民に代り砲煙彈雨の間に馳騁し或は傷きて倒れ或は病みて起つ能はざるものあるや之を救護して其の苦を除くは君國に報ゆる所以にあらずや然れども我が赤十字社は唯々報國のみに偏するにあらず萬國赤十字社共通の主義たる博愛慈善をも亦重じつゝあるなり即ち敵兵と雖も毫も味方と區別する所なく一視同仁之を救護し又外國に事あるに及びては國際的に之に救助を與へ其他平時に於ても常に天災地變に際し救護を施すのみならず常に慈善事業を行ひ以て人類相憐の情を盡しつゝあるは是所謂博愛慈善を以て人道の誠を效すものにあらずや

書取

世間普通の看護婦中に學問も足らず志も立たず品行も修らずして往々世人の爪弾きを受くるものあれど赤十字社養成の看護婦は學問技術の優れたるは勿論忠愛の二字を以て精神とし品行も方正なるが故に概して世人の尊

敬を受け居れり

算術

- (1) 一升三十四錢の醬油と一升三十五錢の醬油と之に水三合を交せ安價の醬油を作らんとす一升幾何に賣りて可なるや
- (2) 一打五圓四十錢にて仕入れたる洋酒を一瓶に付五錢の利を得て半打を賣るときは總代金何程を受取るべきか
(右二問とも式及答を要す)

作文

赤十字社看護婦生徒に志願せし譯を問はるゝに答ふる文

○愛知支部

(明治四十三年度入學試験問題)

讀書

- (1) 左の文を解釋すべし
- 人の呼吸(いき)又は火鉢食物等よりは有毒(どく)をふくむ)なる各種(いろ／＼)の瓦斯を發生(おこす)するが故に室(へや)は時時開放(あけはなす)して新鮮(あたらしい)なる空氣と交換(いれかへする)を要(え)す之を怠(おこた)る時は吾人の呼吸器(肺などのいきをする道具)を害(がい)いためる)し身體の衰弱(よはり)を招(まね)ひ(ひきつける)くに至(いた)るべし
- (2) 左の語句の読み方と意義とを記せ
- (い)應分(てきるだけ)の盡力(ほねおり)

- (ろ)高價(ねのたかい)なる藥劑(くすり)
- (は)未熟(へたな)なる職工(しごとし)
- (に)爲替證書(かはせのてがた)を封入(なかにつゝみこむ)す
- (ほ)生存競走(せいくわつ)のためにわれがちとなる)

書取

- (1) 左の文中の線を引ける所を漢字に改めよ
- しつ(室)はよじようはんほど(四疊半程)ありてせきじよう(席上)にざぶとんをしき(敷)左手のとだな(戸柵)にはべんとうばこ(辨當箱)ちやどうぐ(茶道具)等を入れざゆう(座右)にはたばこぼん(煙草盆)ひばち(火鉢)等を置けり
- (2) 次の假名を漢字に改めよ
- (い)はおり(羽織)はかま(袴)

- (ろ)がくじゆつ (學術)ぎげい (技藝)
- (は)れいぎ (禮儀)さほう (作法)
- (に)かつどうしやしん (活動寫眞)
- (ほ)けんこう (健康)とびようしん (病身)

算術 (一時間半)

- (1) 人體の平常の溫度は攝氏約三十七度なりとこれは華氏の何度か
- (2) 一人毎日六合あてにして五百人九十日分の糧食あり一人毎日五合あてにすれば一千五百人の幾日分の糧食となし得べきか
- (3) 手袋一對を造るに毛糸三十二匁を要すとすれば十五對の手袋を造るに毛糸何「ポンド」何「オンス」を要するか
- (4) 但「ポンド」は十六「オンス」にして「オンス」は七・五六匁に當る機械女工あり一日の賃金四十五錢なれども夜業をせしときは一回につ

作文

き十五錢づゝの増給を得したために三十日の後に至り十四圓七十錢を受取りといふ此工女がなし、夜業の回数如何

友人の病氣を見舞ふ文 (候文體)
 (書取讀書作文通じて二時間)

○静岡支部

(明治四十三年度入學試験問題)

讀書

彼の朝日の登るを見よ、まことに清く、まことにほがらかなり、彼の山櫻

の咲き匂ふを見よ、まことにうるはしく、まことにいさぎよし、是、やがて我々の懐ける氣象、精神なり、此の氣象をもて君に仕へむか、誰か忠義の人たらざらむ、此精神をもて國に盡くさむか、誰が愛國の人たらざらむたいにそれのみにあらじ、げにや朝日に匂ふ花の盛は、こま、もろこしはいふも更なり、西の果なる外國までも、吹く春風の匂ひわたりて、おのづから大和心に靡き伏しなむいさぎよし
 誰か忠義の人たらざらむ
 愛國

こま、(高麗)もろこし(唐)

書取

兵營は上下の階級、はなはだ正しくて、上官にあいたるときは、ただちに手をあげて、敬禮すべきことに候、また、それぞれ一定の服装ありて、

おくるよりいぬるまでは、かならず、それを正しく着くべく、寝具のたのみかた、帽子のかぶりかたよりぼたんをみがくことまで、いち／＼注意すべきことに候、

算術

- (1) $(345 \times 987) + (274680 + 872) - 98765 = ?$
- (2) 五丈四尺織物を三日間にて織り上ぐる職工あり此職工七日間には幾尺を織り得べきか
- (2) 甲乙丙三人にて工事を請負ひ甲は工夫廿五人を三十日間乙は三十人を二十日間丙は三十六人を十五日間出し賃錢總計七百五十六圓を得たり甲乙丙賃錢の分前各何程なるか
- (4) 或人五日間の旅行をなし初日は五里十八町次日は十里二十町第三日は七里三十町、第四日は九里、第五日十里十八町を行けりと云ふ一日の行

程平均何程なるか

作文

赤十字社看護婦生徒志願に付父兄の承諾を求むる文

○山梨支部

(明治四十三年度入學試験問題)

讀書 (三十分)

日本赤十字社は天皇皇后兩陛下眷護の下に立ち政府の監督を受け海外各社と同盟聯伍する所の團體にして其目的は戦時の傷者及病者を救護するに在るを以て國家

有事の日に方り其の任務を全うするは専ら救護員の力に頼らざるを得ず是

書取 (三十分)

ちゆうい (注意)、かんどふ (看護婦)、べんきよう (勉強)、にんたい (忍耐) ぷくじゆう (服従)、ゆうき (勇氣)、ひんかく (品格)、そうけん (壯健)、そつぎよう (卒業)、めいよ (名譽) (右を漢字にて書くこと)

算術 (二時間)

- (1) 某小學生徒の全員は五百廿二人にして其中男生は三百廿五人なり女生徒は男生より何人少ないや
- (2) 二丈九尺八寸の價十九圓卅七錢の縮緬あり其の九尺六寸を買はんには

- 幾許を要するや
- (3) 午前八時甲地を發し一時間五十四丁の速力を以て乙地に向て行くものあり之を呼び戻さんが爲他の人午前十時甲地より自轉車に乗り一時間百廿六丁の速さを以て行くときは何時に追付くべきや
- (4) 或人一俵五圓八十錢の米三百四十俵及び三圓六十五錢の麥四百廿三俵を賣り一坪の代金十二圓五十錢の宅地二百廿五坪を買ひたり殘金如何

作文 (一時間)

家屋落成を祝する文

○宮城支部

(明治四十三年度入學試験問題)

讀書

- (1) 左の文章の意義を解せよ
- (い) 世のため人のためには時ありて犠牲(自分の身をすてること)となるをも辭することなかれ
- (ろ) はやる(自らすゝむ意) 勇氣はたわまねど(よわらないがの意) 疲れし身をばいかにせん
- (は) 羊煮て兵をねぎらふ(いたはる) 霜夜かな
- 2) 左の字句に讀がなを附け且意義を解せよ
- (い) 涉獵(ひろく書を読むこと)
- (ろ) 面目一新(やうすを新しくする)
- (は) 反省(自分の心にかへりみる)
- (に) 慷慨家(世をなげきいさどほる人)

- (3) 左の——線を施したるところに漢字をあてよ
 (い)びよーにん(病人)はきとく(危篤)におちいつたいし(醫師)は
 こくびをかたむけ(傾)てゐる
 (ろ)にんたい(忍耐)にしてこんなん(困難)にくつ(屈)せざればつ
 いにはそのじぎよー(事業)をじようじゆ(成就)するにいたる

書取

- (1) 一旦緩急ある場合に備ふるがために、我が國には徴兵令の定めありて國民は皆兵役の義務を有せり
- (2) 自修の力を以てすれば意志弱き者も剛毅となるべく記憶鈍き者も物覚えよくなるべく手先の不器用なる者も器用となり脚弱き者腕力なき者いづれも生れかはりたる如くなることあり
- (3) 御書棚にありし洋本只今御不用に候はば御貸し下されたく候少々熟讀

- (4) いたしたく候間御返却の期は定めておくれ候はんとは存せられ候がそれ御承知にて何とぞ拜借願ひたく候

算術

- (1) 或仕事を母子二人にて成したるに二日にて漸く其三分の一出來たり其残りを母のみにて六日かかりて成し終れりと云ふもし母子各一人にて成さば幾日にて成るべきか
- (2) 三人の姉妹あり長女と次女との年齢の和は四十七年次女と三女との年齢の和は三十九年三女と長女との年齢の和は四十二年なりと云ふ各の年齢如何
- (3) 或人其の子の所に小包として二八五匁の拾一枚一足六「オンス」にて編みし靴下三足外に四二〇「グラム」の薬品を送らんとす包紙の重さ三五

(4) 勿^{いんめ}ならば全體^{ぜんたい}にて何^{なん}勿^{いんめ}となるか
 某^{あつ}會社^{かいしゃ}社員^{しやくわい}恤兵部^{いしやくべい}へ十圓^{じゅうげん}を寄附^{よき}し之^{これ}を月給^{げつぎやう}に應^{おう}じ各人^{かくじん}に割當^{わりあ}てんとす其^{その}中^{うち}一人^{ひとり}は五十圓^{ごじゅうげん}二人^{ふたり}は卅五圓^{さんごげん}四人^{よんりん}は二十圓^{にじゅうげん}なりとすれば各人^{かくじん}の出金^{しゅつぎん}高如^{たかごと}何^{なん}

各題^{かくだい}毎^{ごと}に式運算^{しきうんざん}解答^{かいたふ}を記^きせ

作文

看護婦^{かんてふ}志望者^{しぼうしゃ}の目的^{もくてき}を問^とはれたるに答^{こた}ふる手紙^{てがみ}

○岩手支部

(明治四十三年度入學試驗問題)

讀書

(一) 讀方^{よみかた}—を引きたる文字^{もんじ}に假名^かをつけよ

明治維新^{めいじいしん}(おしん) 後の社會^{ごの}(しやくわい) に大なる影響^{たいい}(えいさやう) を與^{あた}へたるは西洋思想^{せいやうしきやう}(しさう) の輸入^{ゆにふ}(ゆにふ) なり而^{しか}して西洋思想^{せいやうしきやう}の紹介^{せうかい}(せうかい) 者^{しや}として最も名^なあるは福澤諭吉^{ふくざわゆきち}(ふくざわゆきち) なり

(二) 解釋^{かいしやく}

動物^{どうぶつ}はその形質^{けいしつ}(かたちとせいしつ) を、かならず、その子^こに傳^{つた}ふるものなれども、子^この形質^{けいしつ}の、親^{おや}と、全く同^{おな}じきことは、はなはだまれにして多くは、多少^{たせう}(いくらか) 異なる^{ことな}ところあるをつねとす

(四) 讀方及解釋^{よみかたおよびかいしやく}

(5) 庭園^{ていえん}(には) (ろ) 派遣^{はけん}(出張^{しゅつちやう}させること) (に) 腐敗^{ふはい}(くさる)

書取

—を引きたる假名を漢字にて書け

- (一) さりつ (規律) 正しくべんきよう (勉強) せよ
- (二) 能くはたらき (働) 能くねむ (眠) る
- (三) 病氣ちりよう (治療) のためかいがん (海岸) にてんち (轉地) せり
- (四) こきよう (故郷) よりてんばう (電報) きたる

算術

- (1) $7765026 \div 258 = ?$
- (2) 巾一尺長 二丈七尺の布をたちて巾二寸長九尺の布切幾本を得べきか
- (3) 工女ありはたらきたる日には食事はやとひ主の持にて日給金四十錢を得べく休みたる日には日給を得ざるが上に食料として金十五錢やとひ主

に拂ふべき約束なりしに此工女三十日間に金九圓八十錢を得たりといふ
 休みたる日は幾日なるか
 注意(一)は運算と答
 (二)(三)は式と答を記すべし

作文

日本赤十字社看護婦採用試験に合格せるを友に知らす文

○青森支部

(明治四十三年度入學試験問題)

讀書 (十五分間)

自疆、宏遠、恢弘、公益、智能、光輝、務、緩急、深厚、博愛、國體、

扶翼、義勇、恭儉、天壤、服膺、遵守、庶政、惠澤、遺風、

書取

- 一、看護婦たる者は、兩陛下、一視同仁の聖意を奉し忠愛なる衆社員の心を心とし勤勉以て其職を盡すべし
- 一、患者を救護するは我彼の別なく懇篤深切を旨とすべし

算術

- 一、甲、乙の二名あり乙は價格貳千圓の畑地五反三畝十歩を有し甲所有の田地六反歩と交換せんとするに田は畑より貳割五歩の高價なりと云ふ然るとき乙の甲に拂ふべき差額幾何なるや
- 二、馬壹頭の價千二百五十圓牛壹頭の價八百八十九圓豚壹頭の價六十六圓なりと云ふ平均壹頭の代價幾何なるや

- 三、縹帶壹卷の價十三錢とすれば貳千六百四十卷の價幾何
- 四、甲の十五日にて成就する事業を乙は十日を要し丙は五日を要したりと云ふ丙の十五日を要する事業は甲乙各幾日を要するや

作文

姉の女子師範學校卒業を祝する文

○山形支部

(明治四十三年度入學試験問題)

讀書

凡そ事の成否は遲速に依るに非ずして勉めて間斷なきに在り彼の松樹の種子を見よ眞に是れ一小粒のみ而して其成長するや亦誠に遲緩なり然れども

年々歳々成長して已まざるを以て遂に絶大の喬木となり鳥は來りて其枝上に吟じ牛馬は來りて其樹蔭に息ふに至る人も亦此の如し小なるを以て捨てず遅きを以て倦ます日に月に智識を増進するときは成長の後遂に賢人君子となることを得べし
 右漢字に片假名を施せ

書取

- 一、富貴あれば又貧賤あり
- 一、此所彼所に散亂す
- 一、牛羊群を成して原野に遊ぶ
- 一、帯には短し袴に長し
- 一、己の欲せざる所之を人に施すこと勿れ

算術

- 一、甲乙二種の茶あり壹斤の價甲は壹圓八拾錢乙は貳圓なり今甲五十斤に乙三十斤を混合して販賣するときは壹斤の價格幾何なるや
- 一、商店あり壹部四圓五拾錢の書籍六十五部を買入之を轉賣して參百拾八圓五拾錢を得たり書籍壹部の利益幾何なるや

作文

看護婦養成所入所試験及第を友人に報する文

○秋田支部

(明治四十三年度入學試験問題)

讀書 (一時間半)

- 一、左の各題中に在る漢字に片假名を以て發音を付せよ
- (1) 一旦緩急あれば義勇公に奉じ以て天壤無窮の皇運を扶翼すべし
- (2) 惟れ信惟れ義淳厚俗を爲し華を去り實に就き荒怠相誠め自彊息まざるべし

二、左の各題の意義を解説せよ

- (1) 慈仁(いつくしみなさけあること)にして懇篤(ねんごろにあつまこと)なること
- (2) 忍耐(たへしのぶ)にして事に屈(へこたれる)せざること
- (3) 柔順(すなほ)にして命令(上の人のいひつけ)に服従(したがふ)すること
- (4) 温和(おだやか)にして患者を慰撫(なぐさめなてる)すること
- (5) 周密(こまかにきをつける)にして作業(しごと)に敏活(てばしこい)なること

(6) 貞操(みさをたゞしい)にして自ら重(おもん)ずること

(7) 謙讓(へりくだりゆる)にして婦德(をんなたるものゝ徳)を修(とよ)むること

(8) 舉動(たちゐふるまひ) 靜肅(しとやかに)にして多辯(口かずおほきこと)ならざること

(9) 脩容(おつくり) 清素(さつぱり)にして華奢(はなやか)に流(なが)れざること

(10) 學術(がくもんきじゆつ) 精深(くはしくふかく)にして應用(あてはめはたらかす) 宜(よろ)きを得ること

書 取 (一時間)

日本赤十字主義

日本赤十字社の趣旨は歐米各社のそれとは少しく趣を異にして居る即ち
 歐米各社は一般に博愛慈善といふことを其主義として標榜して居りますが
 本社は其外に報國恤兵といふことを標榜し寧ろ之を主旨として居ると申し
 て決して博愛慈善といふことを輕んずるのではない本社は實に此報國恤兵
 と云ひ博愛慈善といふ兩主義を能く調和して茲に一個獨得の日本赤十字主
 義を作つて居るのであります而して這の主義たるや蓋し歴史的に養成され
 たものである即ち本社は最初報國恤兵といふことを標榜して立つた報國恤
 兵とは讀みて字の如く國に報ゆる爲に兵を恤むといふので之を言ひ換ふれ
 ば傷病兵を救ふて忠君愛國の實を擧げ様といふの主義であります處が萬
 國赤十字社の聯盟に加はつてからは赤十字共通の主義なる博愛慈善といふ
 ことをも標榜することになつた而して此兩主義は日清戦争清國事件日露戦
 争の三戦役を経てしつくりと調和するに至つたのであります、夫て私は本社
 獨得の主義を一言にして盡すべき語句を得たいと欲ひ茲に格言的の者を作

りました其語は即ち日本赤十字社は報國恤兵を經とし以て忠愛の實を擧げ
 博愛慈善を緯として以て人道の誠を効す是を主義の大綱と爲す

○印は口頭にて文字の書き方を示す分

算術

- 一、或人百廿一里の道程を人力車にて往復し車賃十九圓卅六錢を拂ひしと
 いふ然るときは一里の車賃幾何なるか
- 二、書籍あり紙數三百十二枚にして百二十枚は一枚毎に字數四百、餘は四
 百二十字なりと云ふ總字數幾何なるか
- 三、一升の價六十五錢の甲酒と六十錢の乙酒とを混合して一升六十二錢の
 酒五升を得るには甲乙酒幾何を要するか
- 四、甲乙丙三人にて合資會社を組織せり其出資總額八十萬圓にして甲は乙

の二倍丙は乙より一萬二千圓少なしと云ふ各人の出資額を問ふ
五、二數あり甲は其和の二分の一より三個多く乙は甲の二分の一より一個
少しと云ふ各數を問ふ

作文

近衛聯隊に入營中の兄に救護看護婦生徒應募の承諾を求むる書簡

○福井支部

(明治四十三年度入學試験問題)

讀書

一左の文章中の漢字に假名を附し且全文の意義を記せ
電氣は應用(あてはめもちゆる)甚だ廣くして通信(たよりに通ずること)

に運搬(はこぶこと)に醫術に工業に日用(ふだんつかふ)學術に世を益
(ためになる)し人を恵むこと廣大(ひろくおほきい)無邊(かぎりがない)
なり、十九世紀の文明は半ば電氣の力に頼るといはれしが時正に二十
世紀に入り電氣の領域(領分)益々廣まり益々繁榮(さかゆる)せんとす

書取

- 一左の假名を漢字交りに書改めよ
- い、りよだん(旅團)
- ろ、きせん(汽船)のおほらい(往來)
- は、せいけつほう(清潔法)
- に、やくそくてがた(約束手形)
- ほ、かんこく(ちよせんのこと)(韓國)(朝鮮のこと)

算術

一、甲乙丙三人あり其の體量甲は九貫四百匁にして乙は甲より二貫七百五
 十匁重く丙は乙より七百匁輕しと云ふ乙丙の體量如何

二、次の計算をせよ

$$498 \times 143 + (36 \times 47)$$

三、毎日七十五錢の工賃を得る職工が其二十五分の十九を費し其餘を貯蓄
 するときは一週間の貯蓄高如何

四、四分利付額面百圓の公債を現金九十五圓にて買入るときは、年何程
 の利歩となるか但厘位までを示せ

五、金三十六圓を三と五と七との割合に分たんとす各何程なりや
 (注意) 各問とも運算の答を明記すへし

作文

郷里の母に送る手紙

○石川支部

(明治四十三年度入學試験問題)

讀書

すべて資本はわれらの職業を營むに缺くべからざるものなるがゆゑにます
 くこれを増加せんことをつとめざるべからず、これを増加するには貯蓄
 によるにしくはなし、貯蓄とは、貨財の使用を節して未來の必要に供するを
 いふ、されど、いかに貯蓄せんとすればとて貨財の餘裕あるにあらずんば、
 貯蓄するよしなかるべければ、われらは、平素、勤勉と節儉とを旨として

大いに、その餘裕をつくらざるべからず
書籍、購求。進路、動搖、状態、温度、患者、注意、室内、身體、現時、
成長、飲食物、健全、危篤

書取

一、看護婦の最も大切なるは品行と節操に在り一度品行を破り節操を失ふ
ことあるときは萬善一時に消滅して名譽は忽ち失ふにいたるよく之
を戒め慎むべきものなり

右は口頭にて述べ筆記せしむ

二、さいげつ(歲月)はながる(流)るゝ如くわれ(我)もいつ(何時)し
かせいちやう(成長)して世に出てさまざま(様々)のてきごと(出来
事)に遇ふにをよ(及)びてくわこ(過去)ををもふ(思)のじやう
(情)ますく(益々)ふかく(深)なりぬ

右は書記して示し線の文字を本字にて書き取らしむ

算術

一、(138 × 46 + 891) ÷ 57 = ?

運算並に答を示せ

二、手巾一枚を買ふ時は十三錢なれども一打買ふ時は壹圓三十八錢なりと
さすれば一枚に付何程の差なるか

但一打は十二枚なり

三、姉妹の貯金合せて七十六圓にして姉の分は妹より十七圓多しと、各貯
金高を問ふ、以上二題は式並に答を示せ

作文

一、觀梅に友を誘ふ文

但假名は片假名を用ふ
友人の卒業を賀する文
但假名は平假名を用ふ

○富山支部

(明治四十三年度入學試験問題)

讀書

飲食(のみくひ)は人の生命(いのち)を保つに缺くべからざるものなれば、固(もと)よりこれを廢(やめる)すべからざれど其の適度(ほど)といところ)を失はば、却(かへつ)て身體を害するを以てこれを慎まざるべからず。これ飲食節制(ひかへめにほどよくすること)の必要(ひつた)しなく

てはならぬこと)ある所以なり
飲食の目的(めあて)は身體を養ひこれによりて心身の消耗(へりなくなること)を補(おぎな)ふ(たらざるをみたすこと)はんためなれば、成るべく滋養多(おほ)きものを飲食して、心身の營養(やしなひ)を圖るべきも、過度(どにすぎる)に飲食すればかえつて害を來すべし、注意(きをつける)せざるべからず
以上—印の箇所は振假名を附し全文に句讀を施し且其意義を解くべし

書取

我等は已に我國民たれば國民の務あることを知らざる可らず國民の務を盡さんには先づ學問を怠らずして、事物の理を知ること務むべし學問なければ如何なる賢き生つきの人にも用を成さざるなり

練習、命令、性質、適當、親切、壯麗、伶俐、保護、勉勵、覺悟、

算術

- (1) $(84032 \times 2863 + 32) \div ?$
 - (2) 四十六人にて寫眞を撮りしに其代價は内三枚は金六圓十錢にして他は一枚金五十錢づゝなりと今各一枚づゝを得んには一人に付何程づゝを出金すべきか
 - (3) 或人密柑若干を買入れたるに其内三十二個腐りたり、而して其腐りたる割合は百個に付四個に當れりと然らば買入數は何程なるや
 - (4) 如何なる數の七倍に六を加へたるものは十一の五倍となるか
 - (5) 甲乙二人あり今乙は甲より三十二里先方にあるときは、甲は一日十二里乙は一日八里づゝの速力にて同方面に歩行せば何日間にて甲は乙に追付くべきや
- 以上は解式及運算答を記すべし

作文

- (1) 看護婦 (記事文)
- (2) 餘寒見舞の文 (書簡文)

○鳥取支部

(明治四十三年度入學試験問題)

讀書 (一時間)

甲 とかうするほどに (かれこれするうち) に馬琴が六十歳の秋は來りぬある朝ふと起き出でけるに、右の一眼見ることを得ず。うち驚き、(うちは意味を強める語) 且怪みて (そのうへあやしくおもふて) 其子に示すに「ひとみの上部流れたり療治せらるべし」と云ふ、されど馬琴は思ふ

よ、「われいとけなき時より、やはり目だに病みしことなし。しかるに一朝右眼を失ひしは年頃の讀書の疲にもあるべく、又冬、春ごとに、高き火鉢を左右に置きて、寒を防ぎしかば、其火氣が右眼をおかしたるにもあるべし。醫療（醫者の療治）及ぶべからず。」とて遂に従はざりき

乙、我國の政府は萬世一系の天皇が、之を御統べになるのである。しかし國務大臣の輔弼によつて天皇の親裁あらせられる大權のほかは或は帝國議會に與らせ或は政府又は、自治團體に行はせ、或は裁判所に行はせになつてゐる。

書取

さればわれらは、つねに、その豫防を怠るべからず、石炭酸水、石灰など

はみな、よき消毒劑なれば、不潔の場所に撒布して、これを滅すべし。また衣服、家屋、庭園などは清潔にし、食物はなるべく、一度煮沸したる後に用ひて、その寄生を防ぐべし。ことにばくteriやは健全なる身體に入りては繁殖することあたはずして死滅すれども、虚弱なる身體に入りては盛に繁殖して、大害をなすがゆえにわれらはまづ身體を健全にして、その暴威をたくましうする餘地なからしむべきなり

算術（一時間）

- 一、金壹百圓を甲乙二人に分けんとするに、貳拾七圓の差をつけんとす、如何に分配すべきか
- 二、明治三十七年五月清國南山の戦に於て我軍の死傷左表のごとし將校につき死傷總計に對する死去の割合に算出せよ
(但し厘位迄)

	將校	下士卒
戦死數	三六	七一三
戦傷數	一一二	三三四三
總計	一八四	四〇五六

三、壹人毎日六合あてにして五百人九十日分の糧食ありこの分量何程なるか、又この糧食にて壹人毎日五合あてにすれば壹千五百人の幾日分の糧食となし得るか
 (注意) 問題の一つごとに解式と運算と漢字にての答をしるすべし

作文

救護看護婦生徒入學試験の狀況(本日午前中の分)を父母の許に知らせる手紙

○岡山支部

(明治四十三年度入學試験問題)

讀書 (一時間)

一は讀假名を付し次に大體の意味を記載せしむ

(一)軍人の戰場(いくさのばしよ)に臨(ゆく)むや各國の爲めに盡すものにして一人一己(ひとりごと)の怨を報ゆるにあらざれば適當の法を設けて其傷病者を救ふはまことに仁愛の道に適(あふこと)へるものと
 いふべし、赤十字社は實に此の仁愛(彼れこれの別なく人をいとをしむこと)の道によりて設けられたるものにして今より四十餘年前「クリミ

「戦争の時英國の慈善（いつくしみふかくよき）なる婦人「フロレンス・ナイチンゲール」が同志と共に戦地に趣きて數多（かずおほき）の患者を救護せしに基づけり

（二）才藝（心のはたらきとわざ）は年齢にかゝはらず勉勵（つとめはげむ）の功を積むに従ひて熟（出来あがる）すべし、小式部母の教育により歌よみの中に加はりて老成（おとなびたること）の人をも驚かしたるを見れば人は幼より學ぶべきものならずや

書取（一時間）

- （一）熱心に職務をとり兩親の精神を慰めたり
- （二）煙草盆、郵便配達、電報、殘念、障子、規則、國旗、綳帶、清韓、軍艦、活潑、勤儉貯蓄、貞操、

算術

- （1）縦三十二間横十四間の地あり今これと同坪數にて横二間を増さば縦何間となるか
- （2）健脚家あり二百七十二里の道を行くに最初四日間は二十四里づゝ行きしが其後病氣の爲め毎日十六里宛歩行せりと云ふ然らば出發後何日にして先方へ達するを得しか
- （3）或人壹萬圓を兄弟五人に分與するに長子より二子は百五十圓三子は二百圓四子は二百八十圓五子は三百六十圓少く分配せんとす五子各何程づゝ與ふべきか
- （4） $8263 - (45 \times 15) + (1208 - 869)$

作文

救護看護婦たらんことの志望を父母に相談する文

○和歌山支部

(明治四十三年度入學試験問題)

讀書

人を訪問する時は業務をさまたげざる時間を選り用事終れば直ちに去るべく又人より訪問を受くる時は直ちに出て、應接すべし約束の時日を違ふるが如きは時間の賊なり殊に集會の時間は正しく守らざるべからず一人後るる爲に多人數をして貴重の時間を空費せしむればなり例へば六十人の集會

に其の中の一人若し十分後るとせば六十人の時間の損失は合して十時間となるべし「時は金なり」といふ古言あれども今日の如く通信交換機關發達し社會の活動敏速なる時代にありては間時は金錢よりも貴し他人をして時間を損失せしむるは其金錢を損失せしむるよりも重し

書取

文明の進歩するに隨ひ分業は益々發達して今日ではどんな品法を製造するにも分業法に依らないことはほとんどない又國家全體からいへば農夫の畑を耕し大工の家屋を作り商人の物品を賣買し官公吏の事務を取扱ひ教師の生徒を教育する等は皆分業に外ならぬのである

算術

一、一時間四漕を航走する帆船にて二十四時間に到着すべき地へ一時間十

二、湮の速力ある汽船にて旅行するときは何時間にて達すべきや

二、一日五十五錢の人夫十五人づゝ一週間使用するときは何程を仕拂ふべ

きや

三、大人は一日米四合を食し小兒は二合五勺を食するとせば大人二人小兒

三人の三十日間に要する米何程なりや

作文 (往復書簡文)

東京の兄の許へ家郷の状況を報する文

○山口支部

(明治四十三年度入學試験問題)

讀書

總て資本は我等の職業を營むに缺くべからざる者なるが故に益々之れを増
加せんことを勉めざる可らず之れを増加するには貯蓄によるにしくはなし
貯蓄とは貨財の使用を節して未來の必要に供するをいふ、されど如何に貯
蓄せんと欲するとも貨財の餘裕あるにあらずんば貯蓄する能はず故に平素
勤勉と節儉とを旨として大いに其餘裕をつくらざるべからず

書取

言語は思想を交換するに缺くべからざるものなれども廣く世間に通じ永く
後世に傳へんには文字によりて前代の人思想を究め現時の人の思想を知
り更に之れを次期の人に傳ふるが故に世は層一層と文明に趣くなり文字は
文明の要具といふべし

算術

一、或人百里を隔つる地へ行かんとし毎日十二里づゝ歩み六日行けり問ふ
前途尙幾里あるか

二、一時間二六里を行く載貨汽車あり其出車後三時を経て同停車場より客
車を出し九時を経て前車と同時に先地に着せり此鐵路の距離何里なりや

作文

看護婦生徒志願に付保證人依頼の文

○香川支部

(大正二年度入學試験問題)

書取(一時間)

尊敬、慈善、忠實、勤勉、覺悟
人が社會に生存するには先づ衣食住を必要とすること論なし即ち衣服は寒
暑を凌ぐべく飲食は身體を養ふべく家屋は風雨を防ぐべき要求を充すべき
ものなり

作文(一時間)

親の看護を依頼する文

讀書(一時間)

人の奢侈に陥るは多く其虚榮心より來る而して女子は男子よりも寧ろ甚し
く虚榮心の強きものなり其の華美を競ひ流行を逐ふが如き即ちこれが爲め
にあらすや奢侈の惡風は其の害寧ろベストよりも恐るべし直に全社會に傳
染して其の活氣を失はしむればなりされば女子たるもの家の爲め又國の爲

め大に其の虚榮心を抑制し質素の徳を守らざるべからず

算術 (壹時間)

- (1) 長方形の宅地あり其周囲は六十二間にして間口は奥行より三間短かしと云ふ其坪數如何
- (2) 一本壹錢五厘の細筆と一本六錢五厘の大筆を取交へ二十錢五厘拂たり各幾本なるや
- (3) $(18\frac{14}{27} - 9\frac{19}{27}) \times \frac{27}{103}$
- (4) 三間と五間との長方形の地あり之を賣り一坪同價にて同形の地を買ひ四倍の代價を拂へりと云ふ其の間數幾何なるや

(大正三年度入學試験問題)

書取 (壹時間)

- 一、容體容態) 一、危篤 一、慈善事業 一、溫和 一、耐忍
- 一、人は男女を問はず其職分を完うすること極めて緊要のことなり然も之れ容易の業にあらず之を完了するには最も堅固なる志操を要すべし

作文 (壹時間)

病氣見舞の文

讀書 (一時間)

一、勤勉には通例勞苦を伴ふものなれども暫く之を忍びて一向に力を其の爲さんと欲する事に傾くる時は精神次第に之に集注し來り初めは勞苦に耐へざりしものも遂には慣れて勞苦を覺えざるに至るのみならず漸次其

の事に興味を感じ楽しんで之を做すに至るべし是れ實に勤勉の徳にして成功の秘訣なり然るに世には自己の才氣を恃みて勤勉ならざる人あり此の如き人は假令一時僥倖を得ることありとするも精神の鍛煉足らざるを以つて困難に堪ふる力乏しく中途にして挫折し易ければ到底最後の勝利を得ること能はざるなりされば事を成さんには才氣あるものと否とを問はず常に精神の集注力を鍛煉せざるべからず古人曰く事は勤むるに精しく怠るに荒ふと斯の言服膺すべし

二、勞苦、集注、成功の秘訣、僥倖、精神の集注力、鍛煉、服膺、

算術（一時間）

一、毎日八時間づ、仕事せば二十四日間に仕上ぐべき仕事を着手の二日目より其日を合せて三日間休業せり約束の期を誤らざらんとするには其後毎日何時間づ、従事すべきか

- 二、五十錢にて水薬五日分を貰受けんとするには水薬一日分代と外に二錢不足せりと云ふ水薬五日分の總代金幾何
- 三、一頁は二十二行一行は二十四字詰にて（餘白なしとす）六百頁の書物を一頁は二十一行一行は二十二字詰（最終の頁に餘白を生ずるも矢張一頁として計算す）に改めて出版すると元の儘にて出版すると印刷費の差如何但一頁の印刷代は元の儘なれば三圓五十錢改正の方は三圓四十錢なりとす
- 四、母は三十五才にして長男は七才次男は五才三男は三才なり三子の年齢の和が親の年齢と等しくなるは今より何年の後なるか

○愛媛支部

（明治四十三年入學試験問題）

讀書

日本赤十字社は。報國恤兵の主旨に依り戦時軍人の傷病者を看護し平時には不幸なる傷病者をも救護することを目的とす。故に本社看護婦たる者は。其學術を修むると共に軍紀軍律及び禮式をも講習し且萬事に親切と仁慈の心を以て當ることを忘るべからず。如斯にして上は皇后陛下の思召に答へ奉り。下は一般社員の誠意に背かず。即ち國家に忠人道に誠を盡す。眞正の日本赤十字社看護婦たりと云ふを得べし

書取

- (一) 胸 腹
- (二) 手 足
- (三) 眼耳鼻口

- (四) 骨肉皮膚
- (五) 氣管呼吸
- (六) 體溫冷熱
- (七) 病室を清潔にす
- (八) 患者を安靜ならしむ
- (九) 忠君は男女を問はず國民の要務とす
- (十) 慈善は人道最大の目的なり

算術

一、試験の結果左の如く點數を得たり其總點數及平均點數如何

二、日給八十錢にて勤務する者あり若し夜業を爲すときは三十錢を増給せらる今三十日間勤務せし内六日夜業を爲せり此日給金總額及其平均一日分金額如何

作文

學校(何學校にて)を卒業したる後今後従事すべき自分の希望を述べて父母、兄、姉、朋友、先生の内に相談する書簡文

○高知支部

(明治四十三年度入學試験問題)

讀書

日本赤十字社看護婦は國家の干城たる軍人の傷病者を看護して其苦患を輕減するの任にあるものなれば直接には其人を助け間接には其國を利し慈仁忠誠二つながら之れを能くするに於ては其功勞は彈丸雨注の間を馳驅す

る所の軍人に比して相譲らずと謂ふも可ならん婦人にして戰場勤務の一部に服事することを得るは洵に名譽と謂ざるべからず

書取

慰問、保護、骨格、筋肉、血液、

算術

- (1) 四百二十名の患者あり内百二十名は兵站病院に收容し五名の看護人に擔當し他は豫備病院に後送して十二名の看護婦を以て擔當せしめたりとせば看護人と看護婦各一人の受持患者幾人なるや
- (2) 甲地より三千五十八人乙地より二千八百五十二人の後送患者あり内四千百十二人は輕症者にして他は重症者なり今其重症患者を五十八個の救護班に收容せば一班幾人の受持なるや

(3) 今傷病兵千三百四十二人の内六百八十六人は病者にして負傷者の八分の一は重傷者なり此重傷者一人に付壹合七勺宛の牛乳を要すとせば其高幾許なるや

作文

赤十字社看護婦生徒に採用せられ大阪支部病院に派遣せらるゝに際し別を友人に告ぐる文

○福岡支部

(明治四十三年度入學試験問題)

讀書

左記漢字に傍訓を付せよ
日本赤十字社は 天皇皇后兩陛下眷顧の下に政府の監督を受け海外各社と同盟聯伍する團體にして目的は戦時の傷病者を救護するに在るを以て國家有事の日に其任務を全うするは救護員の力に頼る

書取

左記假名を漢字に譯せよ

やなぎは (柳) はみどり (緑) はな (花) はくれなる (紅) なり
くも (雲) ゆき (雪) しも (霜) かすみ (霞) きり (霧) などそのな (其名) こそたがへ (違) いづれ (何) もみづ (水) のかたち (形) をかへたる也
さんけん (勤儉) ちよろく (貯蓄) はくに (國) をとま (富) すもとゐ (基) なり

ちうくん（忠君）ほうこく（報國）はくあい（博愛）じせん（慈善）しよ
うこう（將校）かしそつ（下士卒）りくかいぐん（陸海軍）びようわん（病
院）せいとようせいじよ（生徒養成所）

算術

- (1) $9,638 + 127 + 10,305 - 7,742 - 6,101 = ?$
- (2) $32 \times 108 - 2,345 \div 11 = ?$
- (3) 一反壹圓二十五錢の反物十二反を一反壹圓五十錢の反物と取換ふると
きは幾反を得べきか
- (4) 毎月金百圓の收入ある人一年の總費用六百四十圓なりと云ふ此人六
千七百二十圓の貯蓄をなさんには幾年間を要するや

作文

借りし書物の破損を謝してかへす文

○大分支部

（明治四十三年度入學試験問題）

讀書

一、優、虚、鍛、機、舉、喜、天、螢
 二、秀、飾、練、會、致、哀、怒、變、雪
 三、異、功、地、異、功、地、異、功
 四、一、致、哀、怒、變、雪
 五、喜、怒、變、雪
 六、天、變、雪
 七、螢
 八、螢

九、嗜好に應じ
十、至誠天に通ず

書取

日露の役帝國軍人の忠勇なる働きは列國の歎賞する所となり又日本赤十字社看護婦の博愛仁慈なる精神には彼の國の人々感泣せりとぞ

算術

- (1) $(578 + 17 + 74 \times 4) \times (245 + 723) = ?$
- (2) 縹帶木綿六疋の價五圓五十二錢なるとき一千五百三十疋の價幾何
- (3) 或人金三圓にて雞卵九十二個を買ひしに雞卵一個代と三厘不足せりと云ふ雞卵一個代如何
- (4) 甲乙二數あり乙數の五倍は甲數の七倍より多きこと十四にして乙數の

- 三倍は百〇五なりと甲數如何
- (5) 一時間二十八哩を走る汽船あり一晝夜の内二時間宛停泊するとして三週間には幾哩を走るや

作文

看護婦志願を父に乞ふ文

○佐賀支部

(明治四十三年度入學試験問題)

讀書

益々一般人智の發達を計り殊に健全なる兒童には必ず普通一般の智識を與ふべきことの忽せにす可らざるを覺らしめたり此を以て學制を立て、兒童

に完全せる教育を施すは洵に是れ開明人種（知識の開けたる文明人種）の生存問題（いきながらへてゆく問題）なりとす往昔に於ける兒童の體育、智育の方法は各人のなすまゝに一任したりと雖も現今は法律上學制を設けて其の實行を強ゆるに至れり（いやあうなしに教育するやうにした）

（右漢字に假名を附すること〇點の所丈義解のこと）

書取

看護婦たる者は慈愛の心を基とし病者に對しては言語動作を溫和にして常に之を慰撫し苟くも病者に益ある所は細大となく身を忘れて是を行ひ懇篤親切なる事猶慈母の愛兒に於けるが如くなるべし

算術

- 一、或人の日給は金貳圓にして日曜日は休みにして無給土曜日は半休みにして半額なり若し日曜土曜を除き夜業すれば四十五錢を與ふ約なり然して十六日間働きて金貳拾八圓貳拾五錢を得たり然らば夜業は何回なりしや
- （但し水曜より任用し初む）
- 二、鶴と龜との頭數合せて百頭なり然るに其足は二百九十四なり然らば其の頭數各如何
- 三、甲乙同時に同所を出て同方向に五日間進まば十六里離れ反對の方向に七日間進まば百二十六里離る可しと云ふ甲乙一日行く里數如何
- 四、貳錢銅貨を取交せて二十一箇の銅貨を以て三十錢の支拂をなせりと云ふ然らば二錢一錢銅貨各何個づつなりしや

作文

東京に在る兄へ母の病氣を知らする文

○熊本支部

(明治四十三年度入學試験問題)

讀書

たとひ行路(あるくみち)相知らざる人なりとも艱難(なんぎ)に苦しむ
を見るときはおのが分に應じて之を救ふべし況して洪水(おほみず)地震
火災疫疾(はやりやまひ)饑饉(きげん)など人力の及ばざる災厄(わざわひ)にか
かり饑え凍ゆるものあるを見ればおのが餘裕(ゆとり)の財を擲ちてこれを
救ひ場合によりてはおのが行末の衣食を減じてもこれを賑はしすくふの慈
善心なくばあるべからず
湖水は山上にあり周圍(まはり)八里に餘り碧水(あをきみづ)深く湛へ
て恰も鏡面の如し白雲まとへる山水に臨める樓皆倒に映りて風景(けしき)

繪の如し小舟を翫ひて湖上に浮べば冷氣(つめたいき)肌にしみて夏猶寒し
(右二文章共讀方にふり假名を附し且つ全文の解釋をなすべし)

書取

一、古來痘瘡にかかりて命を失ふもの幾ばくといふことを知らず偶々死を
免るることあるもあたら美貌のいと醜く變り果るはいたましき事なり然
るに世の開化に伴ひ文明の進歩するにつれて此恐しき病害を未發に防ぐ
法の出で來しは無上の幸なりといふべし
二、傳染病院、傷病患者、歐米諸國、慈善事業、陸海軍人
四方山の話、氣の毒なる人、施し與ふ優しき風俗、旅行の疲れ

算術

(1) 薪一把の代價上等六錢五厘下等四錢三厘とす各三百五十把を買ふとす

- れば上下各代金の差何程
- (2) 酒あり一樽三斗八升五合入りにすれば七十五樽に足らざること七升五合なり酒の總石數何程
- (3) 某數あり之れに四十八を乗じて二十四除すれば二百十個の三分の一に相當すと某數何程
- (4) 一坪代價三圓五十錢の宅地二反歩を賣却したる代金を以て一坪十一圓五十錢の宅地百五十坪に建家の代價五百七十圓のものを併せて買はんに幾何金を追加すべきか

作文

久しく逢ざりし人の態々尋ね來りしも出て違ひて面會せざりしを詫ぶる書
 簡文

○宮崎支部

(明治四十三年度入學試験問題)

讀書

日本赤十字社の看護婦たらん者は身體の強健を要するのみならず精神も亦た確實にして學術に精通せざる可らず、抑も他人の病苦を慰撫し治術を補佐するの任に當るものは時宜に隨て終日通夜事を執て暇なきこと頗る多し病弱の身體虛儒の精神を以て堪ふ可からず是れ看護者には老弱中を得天賦強健なる者を選ぶ所以なり

皇室(天子の家)。慈善(前に出づ)。治療(病氣をなほすこと)。診察(みたる)。朋友相信(ともだちどうし信じあふ)

書取

道徳は貴賤貧富を問はず男女老幼を論せず大切なるものなれば何人も常に修徳の工夫を積むべし
 衣服は身體を保護しその運動に便にしまたその發達を妨げざるように造るべし
 父母兄弟姉妹親族に對してよくその務をつくし祖先を敬ふことを忘るべからず
 福岡、大分、熊本、鹿兒島、沖繩、佐賀、長崎

算術

- (1) 左式の計算をなすべし
 $(636 \times 127) + (45800 - 25133) \div 4632 = ?$

- (2) 鶏卵商あり一個に付一錢五厘にて四百六十個を買集め之れを賣りたるに始め途中にて三十個を破損したりと雖も尙ほ一圓八十錢の利益を得たりと云ふ一個の賣價幾何
 (3) 一反(二丈八尺)の反物を以て姉妹二人の着物を仕立たるに姉は妹より一丈二尺長しと云ふ各幾尺なるや
 (4) 大小二數あり其和は百四十にして其差は二十なり二數各幾何なるか

作文

入學試験に及第せし友に送る文

○鹿兒島支部

(明治四十三年度入學試験問題)

讀書（一時間）

日本赤十字社救護看護婦たるの品位を保つには徒に高尚なる容體を装ふに
あらずして寧ろ謙遜卑下（へりくだりて自分をひくくする）し多辯（口か
ずおほきこと）を慎み怠慢を戒め溫和にして懇篤（ねんごろにしてあつ
い）なる看護を盡し節操を重じなば諸子の美名は即ち我が日本赤十字社の
美名を添ふるに至らん此の如くなれば諸子も又た忠愛慈善の心を以て報國
恤兵の社旨を奉じ國家に盡さんと誓ひたる初心に恥ざるべし
（〇は講義をなせよ）

書取（十五分間）

- (1) 〇〇（忍耐）にして事に屈せざること

- (2) 溫和にして患者を〇〇（慰撫）すること
- (3) 貞操にして自ら重ずること

〇〇に漢字を充てよ

算術

- (1) 救護看護婦あり巻軸帶を巻くに一時間に平均三十巻にて毎日午前八時
より午後六時迄巻くときは月曜日より木曜日の正午迄には何程を巻くか
但し毎日正午より一時迄は休みとす
- (2) 羽織を仕立つるに表に三圓五十錢の太織一反裏に一尺十九錢の甲斐絹
を一丈二尺用ひ縫賃に六十五錢を拂ふときは總費用幾何なるか
- (3) 若干の救護看護婦生徒共同にて雑誌を購讀し其一ヶ年分の費用を一人
に付四十錢宛出せば三十錢不足し四十五錢宛出せば十錢餘るといふ然ら
ば一人に付何錢宛出せば過不足なかるべきか

- (4) 姉は四十圓、妹は二十四圓を有せしが、妹より若干圓を姉に贈りたるため、姉は妹の四倍になりしといふ。贈りし金高幾何なるか。
- (5) 日露の役奉天に於て分捕せし金塊は二十貫三百五十匁、銀塊百四十三貫九百五十匁なり。稍々不純物を混せるが故、此金塊一匁の價は四圓四十八錢にして、銀塊一匁の價を十五錢なりとせば、其金高合せて何程なるか。

作文

看護婦生徒に合格したるを友達に知らする文

看護人生徒の部

○東京支部

(大正二年度入學試験問題)

讀方

- (1) 左を漢字に直せ
 - じせん (慈善)
 - きうご (救護)
 - ゑいせい (衛生)
 - じゆつべい (恤兵)
 - ていせつ (貞節)
- (2) 左の讀方及意義を記せ
 - 常識 (健全なる普通一般の理解)

- 同情 (おもひやり)
- 團欒 (親しきものゝよりあひ)
- 固陋 (かたくなにして改進を好まぬこと)
- 獨立自營 (他人を頼まずひとりだちて自分にやつてのける)
- (3) 左を解釋せよ
- 無告の窮民 (たよりない貧乏人) にして、醫藥給せず天壽を終はること能はざるは、朕が最も軫念 (心にかけ) して措かざる所なり。乃ち施藥救療 (藥を施し又は無料で療治してやる) 以て濟生の道を弘めむとす。茲に内帑の金 (御手許金) を出だし其資に充てしむ (詔勅の一節)

作文

救護看護人志願に付き保證人を頼む文

算術

- (1) 甲は千三百五十圓を有し丁度乙の二倍より五十圓多しと云ふ、乙の所持金何程なるか
- (2) 東京神戸間の鐵道哩數は三百七十五哩なり一哩を十四町四十五間とするときは何里何町何間となるか
- (3) 六丈の織物を毎日八時間づゝ働きて三日間に織り上ぐる工女あり、この工女毎日六時間づゝ働きて七日間には何程を織上ぐるか
- (4) $3094 \times 618 \div 217 = ?$
小數二位迄割り出すべし

○京都支部

(明治四十四年度入學試験問題)

讀書（一時間）

（左の文字に傍訓を付すべし）
 救護看護人は戦時の傷病者を彼我の差別なく救護すべき任務を有するものにして之を取扱ふ場合には特に一層の懇篤深切を要す即ち戦時本社救護看護人の取扱ふべき患者は普通のものにあらずして君國の爲めに戦ひて或は傷を受け或は病める忠勇なる軍人なり又彼れとて我軍人と同じく自國の爲めに身を捧げたる敵の傷病軍人にして不幸にも我れの手に陥りたるものなり其境遇眞に憐むべし是等彼我軍人を看護するに於て豈尋常の懇篤深切にて可ならん哉是等軍人は各自國の爲めに身を捧げたるものなれば本社救護看護人たるものが之を看護するに方りても亦身を獻げて彼我の別なく懇篤深切にすべきなり本社が天災事變其他必要の場合に施行する救護に從事する時と雖も其傷病者の苦み惱めるを見ては大に同情すべく之れを取

扱ふには勿論懇篤深切を以てすべし

（左の文字に解釋を付すべし）

傷病者（きづをうけたるものやびやうきにかゝれるもの）

彼我の差別（かれとわれとは違ふといふてけじめをつける）

懇篤深切（前出）

忠勇（君國に忠にして勇敢なる）

任務（つとめ）

天災事變（前出）

作文（一時間）

救護看護人生徒志願を友人に勸むる文

書取（一時間）

日本赤十字社の事務を取扱ふため本部を東京市に支部を北海道廳各府縣及臺灣に置き支部の下に委員部を置き其下に分區を置き又朝鮮本部を樺太廳に樺太委員部を關東州に滿州總委員部を設け其他外國に於て必要なる地方に特別委員部を配置せり

日本赤十字社病院及支部病院は救護員を養成する機關にして平時は其の必要の爲めに一般患者及貧困者を救療す又戰時に方りては其建物を陸海軍の病院に供用するものなり

算術(一時間)

- 一、豫備病院外科病室に患者四十八名内科病室に八十名入院せり之れに日本赤十字社救護醫員一名、救護看護婦十名、救護看護人五名にて治療看護に従事せりとせば救護員一人に付患者何名取扱ふ割合なるや
- 二、日本赤十字社救護班の編成を區別せば看護婦組織百三十六班看護人組織三十九班にして其一個救護班の編成人員は二十五名なりとす其總人員幾何なるや

- 三、患者十八名あり今之れを甲地より乙地に運搬するに患者一名に對し二十五分間を要すと云ふ然るときは全部運搬を終るには何時間を要するや
- 四、日本赤十字社救護看護人臨時救護に召集せられ五日間勤務し手當金六圓五拾錢を得たりと云ふ此割合にて三十日間勤務するときは何程の手當を得べきや

日本赤十字會...

編輯者 田光
印刷者 畑中爲之助
發行所 東京市芝區愛宕下町四丁目一番地
振替東京二一七九番

大正四年二月十七日印刷
大正四年二月二十日發行

(定價金 十五錢)

編輯者

東京市小石川區戶崎町六十番地
田光

印刷者

東京市京橋區築地二丁目廿一番地
畑中爲之助

印刷所

東京市京橋區築地二丁目廿一番地
國光印刷株式會社

發行所

東京市芝區愛宕下町四丁目一番地
博愛發行所
振替東京二一七九番

日本赤十字會...

日本赤十字社救護看護婦生徒募集

日本赤十字社本部に於て救護看護婦生徒を募集す、志願者は左の注意事項を見るべし

注意

- 一、願書差出期 大正四年二月廿五日限り
- 二、願書受付場所 東京市芝區芝公園日本赤十字社
- 三、志願者の年齢 明治十八年四月二日生より同三十二年四月一日生迄
- 四、生徒採用人員 十五人
- 五、試験の場所 東京府下澁谷町日本赤十字社病院
- 六、社長の氏名 子爵花房義質
- 七、願書及添付の書類は書式に十分注意せられたきこと
- 八、試験日割等は願書受付の上更に通知書を送付す

救護看護婦生徒募集

右若干名試験の上採用す東京府下在住者にして志願の者は當部に就き手續等承合の上來る三月十日迄に願書差出さるべし

大正四年二月

東京府廳構内

日本赤十字社東京支部

救護看護婦生徒募集

○採用人員十五名 ○出願期限二月二十日 ○試験場所福島、若松、平 ○規則書は郵券二錢を添へ請求せらるべし

福島縣福島市

日本赤十字社福島支部

救護看護婦生徒募集支部

右廣告以外今二月中に救護看護婦生徒を募集する地方支部は左の如し、願書差出期日は其支部に問ひ合さるべし、支部は各府縣廳所在地にあり

埼玉支部、大阪支部、長崎支部、群馬支部、千葉支部、茨城支部、奈良支部、三重支部、栃木支部、長野支部、愛知支部、岐阜支部、静岡支部、青森支部、山形支部、石川支部、島根支部、山口支部、徳島支部、香川支部、愛媛支部、高知支部、福岡支部、佐賀支部、熊本支部、宮崎支部、鹿兒島支部

日本赤十字社副社長小澤男爵閣下序 町田熊男著

フロレンス、ナイチンゲール

定價七十錢
送料八錢

本書は世界各國の看護婦より看護婦の鼻祖として景仰され又一般の人々よりは婦人の鑑として欽慕せらるゝフロレンス、ナイチンゲール嬢の詳傳也、我邦に於て既刊の嬢の傳記なきにあらざと雖も何れも簡單のものにして本書の如く詳しきものなし、看護婦諸子は勿論一般婦人の座右に薦む

發行所

東京市芝區愛宕下町四ノ一

博愛發行所

英國 フロレンス、ナイチンゲール原著
日本 岩井 禎 三 譯

看護の

葉

全壹冊

定價金五十錢
郵送料金六錢

本書は看護婦の自家本元として其名世界に隠れなき英國の故フロレンス、ナイチンゲール
嬢が多年の研究實驗より得たる看護術の秘訣ともいふべき概要事項を自ら筆を執りて詳密
に説き述べられたるものにて、従來看護學を修むる人の未だ心附かざる緊要の事多く名醫
大家と雖も參考として裨益を得ること頗る多しと云へり譯者岩井先生往年伏見宮殿下の隨
員として渡英の際本書の原書を得て携へ歸りて平易の文に譯述せられたるを本所が特に請
ひ受けて出版せるものにて世に珍らしき良書なり看護學に志す人並に醫家は勿論一般家庭
看護の參考書として必ず一本を備へざるべからず

發行所

東京市芝區愛宕下町四丁目二番地
振替口座東京一七九番

博愛發行所

278
157

終

